

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等政策研究事業  
（免疫アレルギー疾患等政策研究事業 免疫アレルギー疾患政策研究分野））

指定研究

我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究

平成26年度 ～ 平成28年度  
総合研究報告書

平成29年3月

研究代表者 宮 坂 信 之

# 目次

・ 構成員名簿	1
---------	---

## ・ 総合研究報告

【指定研究全体】 研究代表者 宮坂信之

我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究

(研究代表者) 東京医科歯科大学 名誉教授 / 膠原病・リウマチ内科学 非常勤講師 宮坂信之

【診療ガイドライン作成分科会】 分科会長 山中 寿

関節リウマチ診療ガイドライン JCR2014 に基づく一般医向け

診療ガイドラインの作成

(分科会長) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授 山中 寿

【臨床疫学データベース構築分科会】 分科会長 針谷正祥

関節リウマチ診療データベース解析からみた

関節リウマチ治療の標準化に関する研究

(分科会長) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター

リウマチ性疾患薬剤疫学研究部門 特任教授 針谷正祥

【診療拠点病院ネットワーク構築分科会】 分科会長 小池隆夫

超音波検査をツールにした関節リウマチ診療拠点病院ネットワークの構築

(分科会長) 北海道大学 名誉教授 / NTT 東日本札幌病院 院長 小池隆夫

・ 研究成果の刊行に関する一覧表	37
------------------	----

・ 論文別刷	79
--------	----

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業  
(免疫アレルギー疾患政策研究分野))  
総合研究報告書

我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究

研究代表者 宮坂信之 東京医科歯科大学 名誉教授  
東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科 非常勤講師

研究要旨：我が国の関節リウマチ（RA）診療の標準化を目指して、1）RA診療ガイドライン作成分科会では、すでに2014年に専門医向けの診療ガイドラインは策定したため、一般医向けのガイドライン策定を試みる。2）関節リウマチ(RA)臨床疫学データベース分科会では、中・高疾患活動性関節リウマチ患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究(T2T 疫学研究)、日本における分子標的治療薬使用関節リウマチ患者に関するアウトカム研究(CORRECT 研究)、大規模保険データベースを用いた我が国のRA患者における合併症リスクの検討(保険データベース解析)をそれぞれ実施し、我が国のRA診療の現状を明らかにするとともに、RAにおける合併症の予防と管理がQOL及び生命予後の改善に重要であることなどを明らかにした。3）RA診療拠点病院ネットワーク構築分科会では、医療の標準化・及び関節リウマチ診療拠点病院ネットワークの構築のツールとして、日本リウマチ学会と協力して関節超音波検査の普及と教育活動、関節超音波検査を用いた早期関節リウマチ診断基準の確立などを行った。これによって、リウマチ診療拠点病院ネットワークを構築することができ、国際的格差、地域格差、施設間格差などの解消及び我が国RA患者の関節予後さらには生命予後の改善が可能となることがわかった。併せて、平成23年8月に厚生科学審議会疾病対策部会リウマチ・アレルギー対策委員会が策定したリウマチ・アレルギー対策委員会報告書(リウマチ対策と略)について施策の実施状況の調査と評価を行い、新たなリウマチ対策の策定を行うことを目指した。

研究分担者・分科会長  
山中 寿 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授  
針谷正祥 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターリウマチ性疾患薬剤疫学研究部門 特任教授  
小池隆夫 北海道大学大学院医学研究科内科学講座 第二内科 名誉教授  
研究分担者  
天野宏一 埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授  
池田 啓 千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科 助教  
伊藤 宣 京都大学大学院医学研究科整形外科学講座 准教授  
遠藤平仁 公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院 部長  
大野 滋 横浜市立大学附属市民総合医療センター 准教授  
小笠原倫大 順天堂大学膠原病内科 准教授  
金子祐子 慶應義塾大学医学部リウマチ内科 専任講師  
川上 純 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座 教授  
川人 豊 京都府立医科大学大学院医学研究科免疫内科学 准教授  
岸本暢将 聖路加国際大学聖路加国際病院アレルギー膠原病科 医長  
小嶋俊久 名古屋大学医学部附属病院整形外科 講師  
小嶋雅代 名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野 准教授

酒井良子 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターリウマチ性疾患薬剤疫学研究部門 特任助教  
鈴木 毅 日本赤十字社医療センターアレルギー・リウマチ科 部長  
瀬戸洋平 東京女子医科大学八千代医療センター 講師  
中山健夫 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系 専攻健康情報学分野 教授  
西田圭一郎 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人体構成学整形外科 准教授  
平田信太郎 広島大学病院リウマチ・膠原病科 講師  
松井利浩 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 生涯免疫難病学講座 准教授  
松下 功 富山大学医学部整形外科 准教授

A. 研究目的

我が国の関節リウマチ診療の標準化を目指して、  
1）エビデンスに基づいた一般医向け診療ガイドラインの作成、2）リウマチ診療の地域格差、施設間格差などに関する実態調査のための疫学データベースの構築、3）医療の標準化・及び拠点病

院の構築のための関節超音波検査の普及と早期診断への応用、4) リウマチ対策の実施状況の調査と評価、などの研究活動を多角的に行う。

## B. 研究方法

本研究は、我が国におけるRA診療の標準化の目標達成のために、3つの分科会形式で研究チームを構成し、密接に交流を行った。

1) RA診療ガイドライン作成分科会：平成23年～25年度の厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業において、主任研究者である宮坂信之、分担研究者である山中 寿を中心にして、GRADE法を用いてわが国における関節リウマチ診療の指針を示すべきガイドラインを作成し、日本リウマチ学会より「関節リウマチ診療ガイドライン2014」として発表した。このガイドラインは専門医のために作成された唯一無二のものであるが、我が国におけるリウマチ専門医の地域偏在もあって、関節リウマチの診療は一般医家が対応することも少なくない。しかも、関節リウマチの予後は、初期の対応が左右する可能性が高いことから、初期治療を行う一般医家向けの診療ガイドラインの策定は喫緊の課題である。RA診療ガイドライン2014作成に関与した委員12名を対象にインターネットを用いて調査を実施した。具体的には、RA診療ガイドライン2014に記載された37の推奨文および臨床現場で多く遭遇すると考えられる8つのシナリオ(表1)が、非専門医にも推奨できるかどうかを専門医の立場から判定した。

【表1】臨床現場で多く遭遇すると考えられるシナリオ

- ・診断が確定していない早期関節炎患者の診断と治療方針の決定
- ・専門医が薬物治療を開始して治療経過を注意深く追っている段階のRA患者の日常的な診療
- ・薬物治療が奏功して安定した経過をたどっているRA患者の日常的な診療
- ・RA患者に合併病態が生じた場合の診療
- ・RAに起因する関節手術が必要な場合の手術

- ・RA患者で関節以外の整形外科的手術が必要な場合の手術

- ・RAに起因する関節手術実施後の整形外科的な経過観察

- ・RA患者で関節以外の整形外科的手術実施後の整形外科的な経過観察

スコアリングは、5：必ず行ってほしい、4：できれば行ってほしい、3：医師の判断に任せる、2：できれば行わないでほしい、1：行わないでほしい、の5段階とした。合意形成にはDelphi法を用い、第1回目の集計後に結果を参考にして2回目の点数付けを行い、その中央値にて判定した。

対象として想定する集団は、内科標榜医、整形外科標榜医、リウマチ科標榜医で、各々開業医、勤務医に分けたので合計8つの集団になった。

2) RA臨床疫学データベース構築分科会：i) 中高疾患活動性関節リウマチ患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究(T2T疫学研究)では、我が国のRA診療において臨床現場において treat-to-target(T2T)が実践されているか否か、実践されているとすればその効用はあるのか、というリサーチクエスションに基づいて行われた。具体的には、米国リウマチ学会/欧州リウマチ学会新分類基準を満たす中等度疾患活動性以上(SDAI > 11 または CDAI > 10)のRA患者、RAによる腫脹関節数2個以上、かつ圧痛関節数2個以上を有する患者、成人かつ本研究への参加に関する同意を文書にて得られる患者、生物学的製剤を未使用のRA患者、登録時に抗リウマチ薬を開始・変更・追加する患者、定期的な外来通院が可能な患者を対象とした。主治医がT2Tの治療アルゴリズムに沿って3か月毎に治療の有効性を評価し、治療を見直し、主要評価項目は試験開始時と比較した72週後のHAQ等の評価による機能的予後およびvdH-modified Total Sharp Score(vdH-mTSS)での構造的予後の規定因子とした。ii) 日本における分子標的治療薬使用関節リウマチ患者に関するアウトカム研究(CORRECT研究)では、我が国のRA診療における分子標的治療薬の

使用実態とそのアウトカムをリサーチクエスチョンとした。実際には、ACR/EULAR2010年新分類基準を満たす日本人RA患者、本研究の参加同意が文書で得られ20歳以上の患者、MTXまたは分子標的治療薬を新たに開始する患者、を満たす患者を登録し、MTX群、Targeted therapy群(TT群)に分けて、登録時から6か月毎にデータを最長3年間収集した。

iii)大規模保険データベースを用いた我が国のRA患者における合併症リスクの検討(保険データベース研究)では、我が国RA患者の合併症の実態とリスク因子の解析を行うことを目的とした。具体的には、全国の幅広い医療機関の保険請求データから作成されるJapan Medical Data Center Claims Data(JMDC Claims Data)を用いて、RA群と非RA群とで合併症の種類、頻度を算出すると同時に、それぞれの合併症のリスク因子の同定も行った。

3)RA診療拠点病院ネットワーク構築分科会:  
i)超音波検査を用いた早期関節リウマチ診断基準の確立とそれを用いた早期治療介入およびタイトコントロールの有効性の検討:超音波検査を用いた「早期関節リウマチ診断基準」の最終案を作成することを目的として計画された。さらに、本診断基準を用いた「早期治療介入」および「タイトコントロール」の有効性をさらに検証することも併せて計画された。

ii)関節超音波検査のピットフォールの同定とコンセンサスの形成:滑膜病変評価における偽陽性ピットフォールを同定し、多施設でコンセンサスの形成を行い、参照資料を作成することを計画した。

iii)関節超音波検査の普及と教育活動の検討:  
標準化された指針とモデルを用い、日本リウマチ学会と共同で、日本リウマチ学会各支部において超音波検査講習会を実施し、関節リウマチ診療の標準化を図ることを計画した。また、より習熟度の高い検者を全国より募り、中級者向けの講習会を行い、アンケート調査等から講習会の研修効果

を評価することとした。また「日本リウマチ学会登録ソノグラファー制度」をより充実させるための方策を提言することとした。

### C. 研究結果

1)RA診療ガイドライン作成分科会:ガイドライン作成委員13名のうち、診療に関与している11名に対してインターネットを用いて調査を実施し、回答を得た。Delphi法による2回目の中央値に基づき、1)すべての医師に期待される医療、2)リウマチ科を標榜する医師に期待される医療、3)リウマチ科専門医に任せるべき医療、の3群に診療内容が大別された。これらは一般医向け関節リウマチ診療ガイドライン作成において骨子となるべきものであり、今後、一般医との間で合意形成が得られるかどうかを検討する予定である(詳細は、山中分担研究者の研究報告書参照)。

2)RA臨床疫学データベース構築分科会:i)T2T疫学研究:RA271例を対象に解析したところ、24週時では34%、72週時では51%がSimplified Disease Activity Index(SDAI)寛解を達成した。この成績は、我が国のRA診療においても早期介入と目標達成に向けた治療(T2T)を行うことの重要性を示した我が国初の貴重なデータである。また、QOLについて解析をしたところ、登録時28%がHealth Assessment Questionnaire-Disability Index(HAQ-DI)0.5であったが、72週時では62%がHAQ-DI0.5と著明なQOLの改善がみられた。関節破壊進行についての解析では、72週時van der Heijde-modified total Sharp score(vdH-mTSS)が評価できた264例のsmallest detectable change(SDC)は2.98であり、264例中205例(78%)がvdH-mTSS<SDCであり、早期介入とT2Tにより関節破壊の進行も抑制できることが明らかとなった。さらに、多変量ロジスティック回帰分析の結果、72週時HAQ寛解の有意な予測因子[オッズ比(95%信頼区間),P値]は、24週時SDAI寛解[2.99(1.42-6.28),P=0.004]、登録時HAQ-DI[0.28(0.18-0.45),P=1.3×10<sup>-7</sup>]、登録時

vdH-mTSS[0.986(0.976-0.996), P=0.009]であった。72 週時 vdH-mTSS<SDC の有意な予測因子は 24 週時 SDAI 寛解[3.53(1.62-7.71), P=0.002]であった。これにより、我が国においても早期 RA の段階より適切な症例に対して積極的に治療介入することの重要性に関するエビデンスが確立されたものと思われる。

ii) CORRECT 研究: MTX 群、TT 群のいずれにおいても、CORRECT 症例は REAL 症例と比較して、罹病期間が短く、Stage 分類が III または IV の患者の割合や Class 分類が 3 または 4 の患者の割合が少ない傾向だった。過去に使用した疾患修飾性抗リウマチ薬 (DMARDs) の数が 3 つ以上の患者の割合、経口副腎皮質ステロイドの使用率も REAL 症例と比較して CORRECT 症例で低い傾向だった。MTX 群において、3 年間の MTX の投与量(中央値)は REAL 症例では 6 から 8mg/週を、CORRECT 症例では 8 から 10mg/週を推移していた。TT 群において、登録時の分子標的薬の内訳は REAL 症例と CORRECT 症例では異なり、より幅広い種類の生物学的製剤が使用されていた。分子標的薬フリーの患者の割合は、REAL 症例と比較していずれの時点においても高い傾向だった。一方、重篤な有害事象、重篤な感染症の罹患率に両群間で差を認めなかった。これらの結果は、RA に対して早期より積極的に MTX が導入され、寛解達成に十分な量が使用されるようになってきたこと、生物学的製剤の使用はさらに治療成績を向上させることなどを示唆しているものと思われる。

iv) 保険データベース研究: RA では、非 RA 群と比較して脳心血管疾患全体の罹患率比(IRR)は 1.63 (1.33-1.99)と有意に高く、心血管疾患(IRR 1.89 [1.49-2.41])、虚血性心疾患(IRR 1.53 [1.13-2.07])、心不全(2.91 [1.94-4.36])も有意な上昇を認めた。骨折全体の IRR は 3.35 [2.80-4.02]と有意な上昇を認め、男女共に IRR は有意に高かった。HI 全体の IRR は 2.47 (2.20-2.77)と有意に高くいずれの部位においても IRR は有意に高かった。これらの結果は、我が

国 RA 患者においても非 RA 患者に比較して心血管障害、骨折、重篤な感染症のリスクが高く、これらの合併症の制御が予後の改善にきわめて重要であることを示唆している。

3) RA 診療拠点病院ネットワーク構築分科会:

i) 超音波検査を用いた早期関節リウマチ診断基準の確立とそれを用いた早期治療介入およびタイトコントロールの有効性の検討を行うために、発症 6 か月以内の無治療患者を対象にレトロスペクティブに解析した。その結果、長崎大学病院 216 例の解析により、パワードップラ (PD) グレード 2 以上の滑膜炎あるいは PD グレード 1 以上の滑膜炎かつ RF/ACPA 陽性で最も診断精度が高いことが分かった。次に諫早総合病院 223 例の解析でも同様の結果が得られた。これにより、現在用いられている ACR/EULAR 分類基準に関節超音波検査を加えることで、より正確な早期診断が可能となりうる事が判明した。

ii) 関節超音波検査のピットフォールの同定とコンセンサスの形成: 系統的文献レビューを行い、11 件の超音波検査による滑膜炎または腱鞘滑膜炎評価の偽陽性に関連する文献を同定した。それに基づき 21 の偽陽性の要因の候補が挙げられ、その中で 11 の要因でコンセンサスが得られた。これらの項目を示す 49 点の静止画と 23 点の動画を含む、24 の健常者の関節例につき、コンセンサスが得られたが、これらの成果が今後の関節超音波検査の標準化に寄与することが期待される。

iii) 関節超音波検査の普及と教育活動の検討: 前研究班において平成 23 年に「関節超音波撮像法ガイドライン」されたが、平成 26 年に「関節超音波評価ガイドライン」が策定された。平成 24 年に日本リウマチ学会近畿支部、関東支部において、本分科会メンバーにより初心者向け講習会が開催された。平成 25 年からは全ての支部で初心者向け講習会が毎年開催され、受講者はこれまでに全国で計 761 人にのぼっている。さらにアドバンスコースは平成 25 年から毎年開催されているが、講習会全体および講義、各実習の満足度は良好であり(平

均6.2~8.5[10段階評価])、本年度までの4年間で160人が受講した。(3)平成26年に日本リウマチ学会登録ソノグラファー制度の規則・カリキュラムを作成したが、平成26年に登録ソノグラファー制度を制定以来、昨年まで2年間で349人が登録した。

#### D. 考察

関節リウマチ診療ガイドラインに関しては、すでにリウマチ専門医向けのものは宮坂信之が主任研究者を務めた前指定研究班にて作成し、発表した。しかし、関節リウマチの診療は、我が国におけるリウマチ専門医の地域偏在もあって一般医家が対応することが少なくない。特に、関節リウマチは、四肢の疼痛を訴えて受診することが多いので、我が国の一般医家では整形外科が対応することが多い。しかし、適切な初期の対応が関節リウマチの予後を左右するため、一般医家向けの診療ガイドラインの策定は検討すべき課題である。我が国における関節リウマチ診療の問題点の一つは早期発見・早期治療の遅延と不徹底であり、一般医がどこまで自らの手で患者を診るか、どこで専門医に診療を依頼するか、どのように抗リウマチ薬や生物学的製剤のリスクマネジメントをするか、などに関するガイドラインの作成によって適正な早期・診断が可能となることが期待される。今回の検討では、診断が必ずしも容易ではない早期関節炎の診断と治療方針の決定や、生物学的製剤を含む専門的知識を要する薬物治療、合併病態を有する患者の治療、関節リウマチに起因する関節手術などは主として専門医が行うべき医療であること、それに対して薬物治療が奏功して安定的な経過をたどっている患者の日常診療や、基本的な薬剤の投与、非薬物的治療などは一般医に推奨できる医療であることが、それぞれ明確になった。このことは、一人の患者を専門医が診るのか一般医が診るのかではなく、同じ患者であっても病態や治療経過により専門医と一般医が連携して治療に当たることが適切な治療であることを示している。

関節リウマチ(RA)臨床疫学データベース解析では、中・高疾患活動性関節リウマチ患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究(T2T疫学研究)、日本における分子標的治療薬使用関節リウマチ患者に関するアウトカム研究(CORRECT研究)、大規模保険データベースを用いた我が国のRA患者における合併症リスクの検討(保険データベース解析)をそれぞれ実施し、我が国のRA診療の現状を浮き彫りにすることができた。

まず、T2T疫学研究では、我が国においても総合的疾患活動性を治療の指標として用いながら、早期より積極的に治療介入して行くことにより、臨床症状の改善のみならず、関節破壊の防止、さらにはQOLの改善が可能となることが明確に示された。

次に、REAL研究とCORRECT研究とで登録された患者、コホートを経年的に対比することにより、我が国においてもより早期よりメトトレキサートや分子標的治療薬が導入される傾向が顕著となってきていること、その結果、寛解を達成する比率が増加していることが明らかにされた。これは、我が国におけるRA診療の質的進歩を示すものと考えられる。一方、分子標的治療薬使用により、重篤な有害事象の内容、罹患率などにおいて両者間には差異が見られなかったことから、今後とも分子標的治療薬使用時にはリスクマネジメントに通暁する必要があることが改めて示唆された。

大規模保険データベースを用いた我が国RA患者の合併症に関する研究では、非RA患者に比して心血管疾患や骨折、さらには入院を有する重篤な感染症の頻度も高いことが明らかとなった、入院を要する感染症に関連する因子としては、年齢、慢性呼吸器疾患、糖尿病、腎疾患、生物学的製剤、ステロイド使用などが挙げられた。従って、RAの日常治療においてこれら関連因子を有する場合に、感染症の予防、早期発見、早期治療が重要であることが改めて示唆された。特に、我が国RA患者においては、高齢で罹病期間の長い症例において呼吸器感染症の頻度が高いことが我々の研究によって明らかにされており、RA患者の生命予後を改善させるためには呼吸器感染

症に対するリスクマネジメントがきわめて重要であることを強調する結果となった。

関節リウマチ診療拠点病院ネットワーク形成に関しては、本分科会を中心とした活動により、関節超音波ガイドラインの作成、日本リウマチ学会関節超音波講習会の開催、日本リウマチ学会登録ソノグラフ制度の導入を通じて我が国でも関節超音波検査が普及しつつある。これによって我が国における関節リウマチ診療の標準化が期待できると同時に、RA診療拠点病院ネットワーク形成が可能となることが期待される。また、PDグレード2以上の滑膜炎あるいはPDグレード1以上の滑膜炎かつRF/ACPA陽性で最も診断精度が高く、感度91.4%、特異度92.5%、正確度92.1%であり、これまでに用いてきたACR/EULARの分類基準にさらに関節超音波検査を加えることで、より正確度の高い診断が可能になることが明らかとなった。

#### E. 結論

本研究の成果は、我が国の関節リウマチ診療の標準化、適正化および均てん化、関節リウマチ患者の疫学データベースの構築と発展、診療の地域格差の解消、さらには今後のリウマチ対策の策定に大きく貢献するものと思われる。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

・関節リウマチ診療ガイドライン 2014。日本リウマチ学会編集 メディカルレビュー社 2014年10月

・Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H. Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and

meta-analysis. *Mod Rheumatol*. 2015 Sep;25(5):672-8.

・Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H. The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach. *Mod Rheumatol*. 2016;26(2):175-9.

・Kojima M, Nakayama T, Otani T, Hasegawa M, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Miyasaka N, Yamanaka H. Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan *Mod Rheumatol*. 2017 Jan 25:1-6. [Epub ahead of print]

・Hirano F, Amano K, Kaneko Y, Matsui T, Sakai R, Harigai M et al.; T2T Epidemiological Study Group.. Achieving simplified disease activity index remission in patients with active rheumatoid arthritis is associated with subsequent good functional and structural outcomes in a real-world clinical setting under a treat-to-target strategy. *Mod Rheumatol*. 2016 Dec 21:1-9. [Epub ahead of print]

・Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, Sugihara T, Nagasaka K, Hagiwara H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Simplified Disease Activity Index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month



12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan. *Mod Rheumatol.* 2016 Dec 15;1-8. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27846756.

• Sugihara T, Harigai M. Targeting Low Disease Activity in Elderly-Onset Rheumatoid Arthritis: Current and Future Roles of Biological Disease-Modifying Antirheumatic Drugs. *Drugs Aging.* 2016 Feb;33(2):97-107.

• Fukae J, Tanimura K, Atsumi T, Koike T. Sonographic synovial vascularity of synovitis in rheumatoid arthritis. *Rheumatology, (Oxford)* 53(4):586-91, 2014.

• Koike T. My contribution, my dream - a look at the future of APS. *Lupus.* 23(12) :1332-1334,2014.

• Fukae J, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Shimizu M, Tanimura K, Matsushashi M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T. Structural deterioration of finger joints with ultrasonographic synovitis in rheumatoid arthritis patients with clinical low disease activity. *Rheumatology, (Oxford)* 53(9): 1608-12, 2014.

• Kasahara H, Nakamura H, Shinohara M, Koike T. AP-VAS 2012 case report: an atypical case of microscopic polyangiitis presenting with acute tubulointerstitial nephritis without glomerular change. *CEN Case Rep.*3: 1-4, 2014.

• Ikeda K, Koike T, Wakefield R, Emery P. Is the glass half full or half empty? Comment on the article by Gartner et Al. *Arthritis Rheumatol.*66(4): 1055-6,2014.

• Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Sakamaki Y, Desiree van der Heijde, Miyasaka N, Koike T. Efficacy and safety of certolizumab pegol plus methotrexate in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to

methotrexate: the J-RAPID randomized, placebo-controlled trial. *Mod Rheumatol.*24(5): 552-60, 2014.

• D'Ippolito S, Meroni PL, Koike T, Veglia M, Scambia G, Di Simone N. Obstetric antiphospholipid syndrome: a recent classification for an old defined disorder. *Autoimmun Rev.*13(9): 901-8, 2014.

• Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T. Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients who could not receive methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the HIKARI study. *Mod Rheumatol.*24(5): 725-733, 2014.

• Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T. Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the J-RAPID study. *Mod Rheumatol.*24(5): 734-743, 2014.

• Harigai M, Mochida S, Mimura T, Koike T, Miyasaka N. A proposal for management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy. *Mod Rheumatol.*24(1): 1-7, 2014.

• Koike T, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Haruna S, Ushida N, Kawana K, and Tanaka Y. Safety and effectiveness of adalimumab in Japanese rheumatoid arthritis patients: Postmarketing surveillance report of 7740 patients. *Mod Rheumatol.*24(3): 390-398, 2014.

• Koike T, Harigai M, Inokuma S, Ishiguro N, Ryu J, Takeuchi T, Takei S, Tanaka Y, Sano Y, Yaguramaki H, Yamanaka H. Effectiveness and

Safety of Tocilizumab: Postmarketing

Surveillance of 7901 Patients with Rheumatoid Arthritis in Japan. *J Rheumatol.*41(1): 15-23, 2014.

• Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T. Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint. *Arthritis Rheum.*66(3): 523-532, 2014.

• Ikeda K, Seto Y, Sakamoto F, Henmi M, Fukae J, Narita A, Nakagomi D, Nakajima H, Tanimura K, Koike T. Analysis of the factors which influence the measurement of synovial power Doppler signals with semi-quantitative and quantitative measures- a pilot multicenter exercise in Japan. *Mod Rheumatol.*24(3): 419-425, 2014.

• Ikeda K, Kambe N, Takei S, Nakano T, Inoue Y, Tomiita M, Oyake N, Satoh T, Yamatou T, Kubota T, Okafuji I, Kanazawa N, Nishikomori R, Shimojo N, Matsue H, Nakajima H. Ultrasonographic assessment reveals detailed distribution of synovial inflammation in Blau syndrome. *Arthritis Res Ther.* 16: R89, 2014.

• Iwamoto T, Ikeda K, Hosokawa J, Yamagata M, Tanaka S, Norimoto A, Sanayama Y, Nakagomi D, Takahashi K, Hirose K, Sugiyama T, Sueishi M, Nakajima H. Prediction of relapse after discontinuation of biologic agents by ultrasonographic assessment in patients with rheumatoid arthritis in clinical remission: high predictive values of total gray-scale and power Doppler scores that represent residual synovial inflammation before discontinuation. *Arthritis*

*Care Res (Hoboken).* 66: 1576-1581, 2014.

• Gorai M, Ogasawara M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. Weighting with the Lansbury articular index improves the correlation of ultrasound score with serum matrix metalloproteinase-3 level in rheumatoid arthritis patients. *Mod Rheumatol.* 24(6): 915-9, 2014.

• Nemoto T, Ogasawara M, Matsuki Y, Murayama G, Yamada Y, Sugisaki N, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. Can routine clinical measures predict ultrasound-determined synovitis and remission in rheumatoid arthritis patients? *Clin Exp Rheumatol.* 32(1): 54-60, 2014.

• Kawashiri SY, Suzuki T, Nakashima Y, Horai Y, Okada A, Nishino A, Iwamoto N, Ichinose K, Arima K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Uetani M, Aoyagi K, Eguchi K, Kawakami A. Synovial inflammation assessed by ultrasonography correlates with MRI-proven osteitis in patients with rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford).* 53(8): 1452-6, 2014.

• Koike T. Antiphospholipid syndrome: 30 years and our contribution. *Int J Rheum Dis.* 18(2):233-41, 2015.

• Yamanaka H, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Suzuki H, Shinmura Y, Koike T. Trend of patient characteristics and its impact on the response to adalimumab in patients with rheumatoid arthritis: post hoc time-course analysis of an all-case PMS in Japan. *Mod Rheumatol.* 25(4): 495-502, 2015.

• Kaneko Y, Koike T, Oda H, Yamamoto K, Miyasaka N, Harigai M, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Takeuchi T. Obstacles to the implementation of the treat-to-target strategy for rheumatoid

arthritis in clinical practice in Japan.

*Mod Rheumatol.* 25(1): 43-49, 2015.

• Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N and Koike T. Early response to certolizumab pegol predicts long-term outcomes in patients with active rheumatoid arthritis: results from the Japanese studies. *Mod Rheumatol.* 25(1): 11-20, 2015.

• Kataoka H, Yasuda S, Fukaya S, Oku K, Horita T, Atsumi T, Koike T. Decreased expression of Runx1 and lowered proportion of Foxp3<sup>+</sup> CD25<sup>+</sup> CD4<sup>+</sup> regulatory T cells in systemic sclerosis. *Mod Rheumatol.* 25(1): 90-5, 2015.

• Takeuchi T, Miyasaka N, Inui T, Yano T, Yoshinari T, Abe T, Koike T. Prediction of clinical response after 1 year of infliximab therapy in rheumatoid arthritis based on disease activity at 3 months: posthoc analysis of the RISING study. *J Rheumatol.* 42(4):599-607, 2015.

• Kono M, Yasuda S, Stevens RL, Koide H, Kurita T, Shimizu Y, Kanetsuka Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Shimizu T, Majima T, Koike T, Atsumi T. Ras guanine nucleotide-releasing protein 4 is aberrantly expressed in the fibroblast-like synoviocytes of patients with rheumatoid arthritis and controls their proliferation. *Arthritis Rheumatol.* 67(2):396-407, 2015.

• Moutsopoulos HM, Sugai S, Sawada S, Koike T, Miyasaka N, Kobayashi S, Takei M, Ogawa N. Professor Norman Talal 1934-2015. *Mod Rheumatol.* 25(4): 664, 2015.

• Hiraga M, Ikeda K, Shigeta K, Sato A, Yoshitama T, Hara R, Tanaka Y. Sonographic measurements of low-echoic synovial area in the dorsal aspect of metatarsophalangeal joints in healthy subjects. *Mod Rheumatol.* 25: 386-392, 2015.

• Bruyn GA, Naredo E, Iagnocco A, Balint PV, Backhaus M, Gandjbakhch F, Gutierrez M, Filer A, Finzel S, Ikeda K, Kaeley GS, Manzoni SM, Ohrndorf S, Pineda C, Richards B, Roth J, Schmidt WA, Terslev L, D'Agostino MA. The OMERACT Ultrasound Working Group 10 Years On: Update at OMERACT 12. *J Rheumatol.* 42: 2172-2176, 2015.

• Ikeda K, Yamagata M, Tanaka S, Yokota M, Furuta S, Nakajima H. Synovitis and osteitis in the left sternoclavicular joint in a 60-year-old woman. *J Med Ultrason.* 42: 133, 2015.

• Hiraga M, Ikeda K, Shigeta K, Sato A, Yoshitama T, Hara R, Tanaka Y. Sonographic measurements of low-echoic synovial area in the dorsal aspect of metatarsophalangeal joints in healthy subjects. *Mod Rheumatol.* 25: 386-392, 2015.

• Yoshimi R, Ihata A, Kunishita Y, Kishimoto D, Kamiyama R, Minegishi K, Hama M, Kirino Y, Asami Y, Ohno S, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y. A novel 8-joint ultrasound score is useful in daily practice for rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 25: 379-85, 2015.

• Kirino Y, Hama M, Takase-Minegishi K, Kunishita Y, Kishimoto D, Yoshimi R, Asami Y, Ihata A, Oba MS, Tsunoda S, Ohno S, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y. Predicting joint destruction in rheumatoid arthritis with power Doppler, anti-citrullinated peptide antibody, and joint swelling. *Mod Rheumatol.* 25: 842-8, 2015.

• Tokai N, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Makino S, Takasaki Y. Predictive value of bone destruction and duration of clinical remission for subclinical synovitis

in rheumatoid arthritis patients. *Mod Rheumatol.* 25(4): 540-5, 2015.

• Atsumi T, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Okada T, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T. The first double-blind, randomised, parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naive early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors, C-OPERA, shows inhibition of radiographic progression. *Ann Rheum Dis.*75(1):75-83, 2016.

• Tanaka Y, Takeuchi T, Miyasaka N, Sumida T, Mimori T, Koike T, Endo K, Mashino N, Yamamoto K. Efficacy and safety of rituximab in Japanese patients with systemic lupus erythematosus and lupus nephritis who are refractory to conventional therapy. *Mod Rheumatol.* 26(1):80-86, 2016.

• Tsuru T, Tanaka Y, Kishimoto M, Saito K, Yoshizawa S, Takasaki Y, Miyamura T, Niino H, Morimoto S, Yamamoto J, Lledo-Garcia R, Shao J, Tatematsu S, Togo O, Koike T. Safety, pharmacokinetics, and pharmacodynamics of epratuzumab in Japanese patients with moderate-to-severe systemic lupus erythematosus: Results from a phase 1/2 randomized study. *Mod Rheumatol.* 26(1):87-93, 2016.

• Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T. Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis. *Mod Rheumatol.* 26(1):9-14, 2016.

• Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Ishii Y, Nakajima H, Baker D, Miyasaka N, Koike T. Prevention of joint destruction in patients with high disease activity or high C-reactive protein levels: Post hoc analysis of the GO-FORTH study. *Mod Rheumatol.* 26(3):323-330, 2016.

• Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Miyasaka N, Koike T, Baker D, Ishii Y, Yoshinari T. Clinical efficacy, radiographic progression, and safety through 156 weeks of therapy with subcutaneous golimumab in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis despite prior methotrexate therapy: Final results of the randomized GO-FORTH trial. *Mod Rheumatol.* 26(4): 481-490, 2016.

• Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Mimori T, Ryu J, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Takasaki Y, Yamanaka H, Watanabe M, Tamada H, Koike T. Postmarketing surveillance of the safety and effectiveness of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 26(4): 491-498, 2016.

• Koike T, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Takasaki Y, Mimori T, Hisamatsu K, Komatsu S, Tanaka Y. Effect of methotrexate plus adalimumab on the achievement of rheumatoid arthritis therapeutic goals: Post Hoc analysis of Japanese patients (MELODY study). *Rheumatol Ther.* 3(1): 129-141, 2016.

• Harigai M, Nanki T, Koike R, Tanaka M, Watanabe-Imai K, Komano Y, Sakai R, Yamazaki H, Koike T, Miyasaka N. Risk for malignancy in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs compared to the general population: A nationwide cohort study in Japan. *Mod*

Rheumatol.26(5): 642-50, 2016.

• Otomo K, Amengual O, Fujieda Y, Nakagawa H, Kato M, Oku K, Horita T, Yasuda S, Matsumoto M, Nakayama KI, Hatakeyama S, Koike T, Atsumi T. Role of apolipoprotein B100 and oxidized low-density lipoprotein in the monocyte tissue factor induction mediated by anti-2 glycoprotein I antibodies. *Lupus*.25(12): 1288-1298, 2016.

• Mimori T, Harigai M, Atsumi T, Fujii T, Kuwana M, Matsuno H, Momohara S, Takei S, Tamura N, Takasaki Y, Ikeuchi S, Kushimoto S, Koike T. Safety and effectiveness of 24-week treatment with iguratimod, a new oral disease-modifying antirheumatic drug, for patients with rheumatoid arthritis: interim analysis of a post-marketing surveillance study of 2679 patients in Japan. *Mod Rheumatol*. Dec 21: 1-11, 2016.

• Watanabe T, Takase-Minegishi K, Ihata A, Kunishita Y, Kishimoto D, Kamiyama R, Hama M, Yoshimi R, Kirino Y, Asami Y, Suda A, Ohno S, Tateishi U, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y. (18)F-FDG and (18)F-NaF PET/CT demonstrate coupling of inflammation and accelerated bone turnover in rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol*. 26: 180-7, 2016.

• Fukuda W, Hanyu T, Katayama M, Mizuki S, Okada A, Miyata M, Handa Y, Hayashi M, Koyama Y, Aii K, Kitaori T, Hagiyaama H, Urushidani Y, Yamasaki T, Ikeno Y, Suzuki T, Omoto A, Sugitani T, Morita S, Inokuma S. Incidence of hepatitis B virus reactivation in patients with resolved infection on immunosuppressive therapy for rheumatic disease: a multicentre, prospective, observational study in Japan. *Ann Rheum Dis*. 2016 Dec 1 [Epub ahead of print], 2016.

• Suzuki T, Yoshida R, Okamoto A, Seri Y. Semi-quantitative evaluation of extra-synovial soft tissue inflammation in the shoulders of

patients with polymyalgia rheumatica and elderly-onset rheumatoid arthritis by power Doppler ultrasound. In press, 2017.

• Kawashiri SY, Nishino A, Shimizu T, Umeda M, Fukui S, Nakashima Y, Suzuki T, Koga T, Iwamoto N, Ichinose K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, Kawakami A. Ultrasound disease activity of bilateral wrist and finger joints at three months reflects the clinical response at six months of patients with rheumatoid arthritis treated with biologic disease-modifying anti-rheumatic drugs. *Modern Rheumatology*.1:1-5, 2016.

• Nakashima Y, Tamai M, Kita J, Michitsuji T, Shimizu T, Fukui S, Umeda M, Nishino A, Suzuki T, Horai Y, Okada A, Nishimura T, Koga T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Ichinose K, Hirai Y, Arima K, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Takao S, Uetani M, Aoyagi K, Eguchi K, Kawakami A. Magnetic Resonance Imaging Bone Edema at Enrollment Predicts Rapid Radiographic Progression in Patients with Early RA: Results from the Nagasaki University Early Arthritis Cohort. *J Rheumatol*.43(7): 1278-84, 2016.

• Kobayashi Y, Ikeda K, Nakamura T, Yamagata M, Nakazawa T, Tanaka S, Furuta S, Umibe T, Nakajima H. Severity and Diurnal Improvement of Morning Stiffness Independently Associate with Tenosynovitis in Patients with Rheumatoid Arthritis. *PLoS One*. 11:e0166616, 2016.

• Yamada Y, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Nakano S, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. The synovial grade corresponding to clinically involved joints and a feasible ultrasound-adjusted simple disease activity index for monitoring rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol*. 26:1-6, 2016.

• Minowa K, Ogasawara M, Murayama G, Gorai M,

Yamada Y, Nemoto T, Matsuki Y, Sugisaki N, Ando S, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. Predictive grade of ultrasound synovitis for diagnosing rheumatoid arthritis in clinical practice and the possible difference between patients with and without seropositivity. *Mod Rheumatol*. 26(2):188-93, 2016.

• Sakai R, Cho SK, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Amano K, Tanaka Y, Sumida T, Ihata A, Yasuda S, Nakajima A, Sugihara T, Tamura N, Fujii T, Dobashi H, Miura Y, Miyasaka N, Harigai M; REAL study group. The risk of serious infection in patients with rheumatoid arthritis treated with tumor necrosis factor inhibitors decreased over time: a report from the registry of Japanese rheumatoid arthritis patients on biologics for long-term safety (REAL) database. *Rheumatol. Int.* 34(12):1729-1736, 2014

• Kaneko Y, Koike T, Oda H, Yamamoto K, Miyasaka N, Harigai M, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Takeuchi T. Obstacles to the implementation of the treat-to-target strategy for rheumatoid arthritis in clinical practice in Japan. *Mod.Rheumatol.* 25(1):43-49, 2015

• Tanaka M, Koike R, Sakai R, Saito K, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Hara M, Kawaguchi Y, Tohma S, Takasaki Y, Dohi M, Nishioka Y, Yasuda S, Miyazaki Y, Kaneko Y, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Miyasaka N, Harigai M. Pulmonary infections following immunosuppressive treatments during hospitalization worsened the short-term vital prognosis for patients with connective tissue disease-associated interstitial pneumonia. *Mod.Rheumatol.* 25(4):609-614, 2015

• Yamazaki H, Sakai R, Koike R, Miyazaki Y, Tanaka M, Nanki T, Watanabe K, Yasuda S, Kurita T, Kaneko Y, Tanaka Y, Nishioka Y, Takasaki Y, Nagasaka K,

Nagasawa H, Tohma S, Dohi M, Sugihara T, Sugiyama H, Kawaguchi Y, Inase N, Ochi S, Hagiyaama H, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M; PREVENT Study Group. Assessment of risks of pulmonary infection during 12 months following immunosuppressive treatment for active connective tissue diseases; a large-scale prospective cohort study. *J.Rheumatol.* 42(4):614-622, 2015

• Sakai R, Hirano F, Kihara M, Yokoyama W, Yamazaki H, Harada S, Nanki T, Koike R, Miyasaka N, Harigai M. High prevalence of cardiovascular comorbidities in patients with rheumatoid arthritis from a population based cross-sectional study of a Japanese health insurance database. *Mod. Rheumatol.* 26(4):522-528, 2016

• Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, Sugihara T, Nagasaka K, Hagiyaama H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Simplified disease activity index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month 12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan. *Mod. Rheumatol.* 15:1-8, 2016

• Hirano F, Yokoyama W, Yamazaki H, Amano K, Hayashi T, Tamura N, Yasuda S, Dobashi H, Fujii T, Ito S, Kaneko Y, Matsui T, Okuda Y, Saito K, Suzuki F, Yoshimi R, Sakai R, Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M; T2T Epidemiological Study Group. Achieving simplified disease activity index remission in patients with active rheumatoid arthritis is associated with subsequent good functional and structural outcomes in a real-world clinical setting under a treat-to-target strategy. *Mod. Rheumatol.*

21:1-9, 2016

・中込大樹, 池田 啓, 中島裕史. 関節超音波検査は ACR/EULAR 分類基準の正確度を向上させる. リウマチ科. 51: 112-7, 2014.

・池田 啓. リウマチ診療のための関節エコー撮像法ガイドライン. 日本臨床. 72: 710-3, 2014.

・池田 啓. 運動器疾患の超音波診断 関節リウマチ. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION. 23: 582-7, 2014.

・池田 啓. 超音波で診る関節リウマチ. Arthritis 11: 164-9, 2014.

・池田 啓. 関節エコーは疾患活動性の指標としてどこまで役立つか. 分子リウマチ治療. 7: 22-6, 2014.

・池田 啓, 古田俊介. RACAT (Rheumatoid Arthritis: Comparison of Active Therapies) 試験. リウマチ科. 52: 37-44, 2014.

・池田 啓. リウマチ性多発筋痛症の診断における EULAR/ACR 予備分類基準ならびに関節エコーの有用性. 臨床リウマチ. 26:207-15, 2014.

・池田 啓. RA 診療における画像診断. Modern Physician. 34: 878-83, 2014.

・池田 啓. 関節リウマチの早期診断における高感度画像診断の意義. Keynote RA. 2:21-5, 2014.

・池田 啓. 関節リウマチの鑑別診断に有用な症状・身体所見. 日本内科学会雑誌. 103: 2407-12, 2014.

・池田 啓. 関節リウマチ診療における高感度画像診断の意義. Pharma Medica. 32: 33-6, 2014.

・池田 啓. 関節エコーによる滑膜病変評価の最適化: 示指中手指関節における予備検討. リウマチ科. 53: 187-94, 2015.

・池田 啓, 中島裕史. 関節エコーとバイオマーカーによる薬効評価と薬効予測. 炎症と免疫. 23: 323-8, 2015.

・池田 啓. リウマチ性疾患の診療における関節エコーの有用性. 臨床病理. 63: 580-9, 2015.

・池田 啓. 関節リウマチ診療における関節エコーの有用性. Current Therapy. 33: 827, 2015.

・池田 啓, 中島裕史. 乾癬性関節炎の本態: 付着

部炎. 日本医事新報. 4777:51, 2015.

・池田 啓, 中島裕史. 関節リウマチの画像診断の進歩. 日本医事新報. 4783: 49, 2015.

・池田 啓. 骨関節疾患の診療における関節エコーの有用性. Rheumatology Clinical Research. 4:159-64, 2015.

・池田 啓. 関節エコー評価の落とし穴とは? Keynote RA. 5: 46-7, 2017.

・池田 啓. 関節痛の鑑別における筋骨格超音波検査の活用. 内科. 119:297-9, 2017.

・池田 啓. Preclinical rheumatoid arthritis. リウマチ科. 57: 107-12, 2017.

・大野滋, 鈴木毅, 小笠原倫大. リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシピ. 南江堂. 東京. 2016.

・鈴木 毅, 小笠原倫大. 関節リウマチ(手首・手指). 石崎 一穂, 鈴木 毅, 藤原 憲太 編. これから始める運動器・関節エコー. メジカルビュー社. 東京. 190-238, 2015

・鈴木 毅. 手関節, 肩関節. 大野 滋, 鈴木 毅, 小笠原 倫大 編. リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシピ: 解剖学的視点とプローブ走査もわかる! 南江堂. 東京. 42-63, 78-91, 2016.

著書

・Bohgaki M, Koike T. Antiphospholipid Syndrome: clinical manifestations

G. Tsokos ed. In "Systemic Lupus Erythematosus" basic, applied and clinical aspects; Academic press P 503-508, 2016

2. 学会発表

・山中 寿, 小嶋雅代, 川人豊, 他. RA 診療ガイドライン 2014: 厚労省研究班案(1)作成法と経緯. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2014年4月24日 東京.

・山中 寿. 関節リウマチ診療ガイドライン JCR2014に基づく一般医向け診療ガイドラインの作成 2018年4月 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会(福

岡) シンポジウム「膠原病・リウマチ性疾患の診療ガイドライン」発表予定

・R. Sakai, S. Kasai, F. Hirano et al. Incidence rate and the risk of herpes zoster in patients with rheumatoid arthritis using Japanese health insurance database. Annual European Congress of Rheumatology (EULAR) 2016. London, England

・F. Hirano, W. Yokoyama, H. Yamazaki et al. SDAI remission at week 24 is a predictor of good functional and structural outcomes at week 72 in a T2T implementing cohort. Annual European Congress of Rheumatology (EULAR) 2015. Rome, Italy

H. 知的財産権の出願・登録

特になし





厚生労働行政推進調査事業費補助金  
難治性疾患等政策研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業  
（免疫アレルギー疾患政策研究分野））  
総合研究報告書

関節リウマチ診療ガイドライン JCR2014 に基づく一般医向け診療ガイドラインの作成

研究分担者・分科会長

山中 寿 東京女子医科大学 附属膠原病リウマチ痛風センター 教授

研究分担者

伊藤 宣 京都大学 大学院医学研究科 リウマチ性疾患制御学講座 准教授

遠藤平仁 公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院 リウマチ膠原病内科 部長

金子祐子 慶應義塾大学 医学部リウマチ科 専任講師

川人 豊 京都府立医科大学 大学院医学研究科免疫内科学 准教授

岸本暢将 聖路加国際大学聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 医長

小嶋俊久 名古屋大学 医学部 附属病院整形外科 講師

小嶋雅代 名古屋市立大学 大学院医学研究科 医学・医療教育学分野 准教授

瀬戸洋平 東京女子医科大学 附属八千代医療センターリウマチ膠原病内科 講師

中山健夫 京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授

西田圭一郎 岡山大学 大学院医歯薬学総合研究 科人体構成学整形外科 准教授

平田信太郎 広島大学病院 リウマチ・膠原病科 講師

松下 功 富山大学 医学部 整形外科 准教授

研究要旨 平成 23 年～25 年度の厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業として作成した専門医向けのガイドラインである「関節リウマチ診療ガイドライン 2014」に基づき、一般医向けのガイドライン策定を模索した。まず、ガイドラインに記載された 37 の推奨文と、日常診療で遭遇する 8 つのシナリオについて、一般医に推奨できるか否かをガイドライン作成委員が判定したところ、専門医に任せる必要がない医療に関する推奨と、専門医に任せたい医療の推奨があることが明らかになった。さらに、この分類が一般医にも実施可能であるかどうかを 131 名の非専門医を対象に調査したところ、「RA 診療の専門医以外にもお願いしたい項目」「RA 診療の専門医に任せたい項目」に分けた分類は、非専門医から概ね評価を得ることができた。一般に診療ガイドラインは当該疾患の専門医向けのものとして作成されることが多いが、推奨文のなかで非専門医である一般医が活用できるものを選択するための方法論として他疾患のガイドラインにも応用可能であると考えた。

A. 研究目的

関節リウマチ診療は大幅な進歩を遂げたが、我が国におけるリウマチ専門医の地域偏在もあって一般医家が対応することも少なくない。リウ

マチ専門医のみならず一般医も診療に参加できるかどうか、その場合の方法論の確立は極めて重要である。当分科会では、平成 23 年～25 年度の厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服

研究事業において作成した専門医向けのガイドラインである、「関節リウマチ診療ガイドライン 2014」に基づき、一般医向けのガイドライン策定を目指す方法を模索した。

具体的には、RA 診療ガイドライン 2014 に記載された各推奨文が、専門医の立場から非専門医にも推奨できるかどうかを明らかにし、次に非専門医に上記の分類が妥当であるかどうか、一般医に期待された項目が一般医にとって可能なものであるかどうかを検討した。

## B. 研究方法

平成 26 年度：まず関節リウマチ患者を一般医が診る場合の問題点を列挙し、一般医に向けたガイドラインを、EBM に基づくガイドラインに基づいて作成する方法論があるかどうかを検討した。

平成 27 年度：RA 診療ガイドライン 2014 作成に関与した委員 12 名を対象にインターネットを用いて調査を実施した。RA 診療ガイドライン 2014 に記載された 37 の推奨文および臨床現場で多く遭遇する 8 つのシナリオが、非専門医にも推奨できるかどうかを専門医の立場から判定した。点数は 5：必ず行ってほしいから 1：行わないでほしい、の 5 段階とした。合意形成には Delphi 法を用い、2 回目の中央値にて判定した。対象として想定する集団は、内科標榜医、整形外科標榜医、リウマチ科標榜医で、各々開業医、勤務医に分けたので合計 8 つの集団になった。

平成 28 年度：各研究分担者が、各々 10 名の一般医の先生方にアンケートを依頼した。対象は、「RA 診療には専門的にかかわっていないけれども、RA 患者が受診する可能性がある一般医」とし、勤務形態や診療科を問わないこととした。RA 診療の専門医以外にもお願いしたい 7 項目と RA 診療の専門医に任せたい 14 項目の計 21 項目について、9（そう思う）～1（そう思わない）までの評点を記載していただいた。

（倫理面への配慮）既存のガイドラインを用いた二次的研究であるため、倫理面の問題は生じない。

## C. 研究結果

平成 26 年度：関節リウマチ患者を一般医が診る場合の問題点として、以下が列挙された。

1. 早期診断が必ずしも容易でない症例が多く、有効性が証明されている早期治療に結びつかないことがある。
2. 生物学的製剤をはじめとする新しい治療が次々と導入されており、一般医の知識が治療の進歩に追いつかない場合が多い。その結果として、従来の治療薬を中心とした消極的治療に偏る可能性が高い。
3. 複合的疾患活動性指標などを用いて客観的に疾患活動性を評価することが徹底しないため、適切な治療方針を決めることができない場合が多い。その結果として、十分な治療が行われずに、機能障害が進行してしまう可能性がある。
4. 薬物療法、手術療法、リハビリテーションなど多岐にわたる治療手段を一括管理できない場合が多い。その結果として、複数の診療科を受診することになり、医療経済学的にも効率が悪いと考えられる。
5. ネット環境の整備などで患者の知識が飛躍的に向上している中で、患者の要望に十分に応えられない可能性があり、患者主体の医療を展開することが難しくなる可能性がある。
6. なお、専門医を対象に作成した EBM に基づくガイドラインを一般医向けに作り直す標準的手法は確立していない。

平成 27 年度：ガイドライン作成委員 13 名のうち、診療に関与している 11 名から回答を得た。Delphi 法にて次の 3 群に分類した。

## すべての医師にお願いしたい医療

4	MTX投与時には葉酸併用を推奨する。
12	RA患者の臨床症状改善を目的としてNSAID投与を推奨する。
21	整形外科手術の周術期にはbDMARD(生物学的製剤)の休薬を推奨する。
32	RA患者に対する運動療法を推奨する。
33	RA患者に対する患者教育を推奨する。
34	RA患者に対する作業療法を推奨する。

3	薬物治療が奏功して安定した経過をたどっているRA患者の日常的な診療
---	-----------------------------------

## リウマチ科を標榜する医師にお願いしたい医療

1	MTX以外のcsDMARD(従来型抗リウマチ薬)不応性RA患者に対してMTXの投与を推奨する。
2	MTX不応性RA患者に対してcsDMARD(従来型抗リウマチ薬)追加併用療法を推奨する。ただしリスクとベネフィットを考慮する。
3	MTX1回投与、分割投与のいずれも推奨する。
5	整形外科手術の周術期にはMTXの休薬を推奨しない。
6	RA患者の治療選択肢として注射金製剤投与を推奨する。
7	RA患者の疾患活動性改善を目的としてブシラミン投与を推奨する。
8	RA患者の疾患活動性改善を目的としてサラゾスルファピリジン投与を推奨する。
11	RA患者の疾患活動性改善を目的としてイグランチモド投与を推奨する。ただし長期安全性は確認されていない。
13	低用量ステロイドの全身投与は有害事象の発現リスクを検討したうえで推奨する。
22	RA患者に対する人工肩関節置換術は除痛効果が優れており推奨する。
23	RA患者の肩関節障害に対する人工肩関節全置換術、上腕骨人工骨頭置換術をともに推奨する。
24	RA患者の肘関節破壊を伴う機能障害に対する人工肘関節全置換術を推奨する。
25	RA患者の膝関節障害に対する人工膝関節全置換術を推奨する。
26	RA患者の股関節障害に対する人工股関節全置換術は長期にわたり安定した成績が期待でき推奨する。
27	RA患者の股関節障害に対するセメントおよびセメントレス人工股関節全置換術の成績は同等であり、ともに推奨する。
28	RA患者の足関節障害に対する人工足関節全置換術を推奨する。
29	RA患者の足関節障害に対する人工足関節全置換術、足関節固定術をいずれも推奨する。
30	bDMARD(生物学的製剤)投与下における整形外科手術ではSSIに注意することを推奨する。
31	bDMARD(生物学的製剤)投与下における整形外科手術では創傷治癒遅延に注意することを推奨する。
35	十分な薬物療法ののち、炎症が残存した関節への一時的なステロイド関節注射を推奨する。

2	専門医が薬物治療を開始して治療経過を注意深く追っている段階のRA患者の日常的な診療
3	薬物治療が奏功して安定した経過をたどっているRA患者の日常的な診療
4	RA患者に合併病態が生じた場合の診療
6	RA患者で関節以外の整形外科的手術が必要な場合の手術
8	RA患者で関節以外の整形外科的手術実施後の整形外科的な経過観察

## リウマチ専門医に任せたい医療

9	RA患者の疾患活動性改善を目的としてレフルノミド投与を推奨する。ただし日本人における副作用発現のリスクを十分に勘案し、慎重に投与する。
10	RA患者の疾患活動性改善を目的としてタクロリムス投与を推奨する。
14	疾患活動性を有するRA患者に対してインフリキシマブ投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
15	疾患活動性を有するRA患者に対してエタネルセプト投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
16	疾患活動性を有するRA患者に対してアダリムマブ投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
17	疾患活動性を有するRA患者に対してゴリムマブ投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
18	疾患活動性を有するRA患者に対してセルトリズマブ投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
19	疾患活動性を有するRA患者に対してトシズマブ投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
20	疾患活動性を有するRA患者に対してアバタセプト投与を推奨する。ただし個々の患者のリスクとベネフィットを勘案して適応を決めるべきである。
36	合併症を有するRA患者に対するcsDMARDやbDMARDの投与は、リスクとベネフィットを考慮することを推奨する。
37	妊娠・授乳中のRA患者に対するcsDMARDやbDMARDの投与は、リスクとベネフィットを考慮することを推奨する。

1	診断が確定していない早期関節炎患者の診断と治療方針の決定
5	RAに起因する関節手術が必要な場合の手術
7	RAに起因する関節手術実施後の整形外科的な経過観察

平成28年度：分科会の研究分担者が依頼した、非専門医131名から回答を得ることができた。非専門医は、「RA診療には専門的にかかわっていないけれども、RA患者が受診する可能性があるような一般医」と定義し、勤務形態や診療科を問わないにととした。回答者131名の平均年齢は41.7±9.7、卒後16.5±10.0年、勤務医108名、開業医18名(無回答5名)、診療科は整形外科53名、内科59名、総合診療科12名、その他13名、研修医3名であった。RA診療の経験あり100名、なし31名であった。下記に各質問の中央値を示す。

	全体 (N=131)	整形外科 (N=53)	内科 (N=58)	総合診療 (N=12)	その他 (N=131)	研修医 (N=3)
I. 以下の項目は、関節リウマチ(RA)診療の専門医以外にもお願いしたい	Median	Median	Median	Median	Median	Median
1 メトトレキサート(リウマトレックスなど)投与時には葉酸併用を推奨する。	8	8	7	9	8	7
2 RA患者の臨床症状改善を目的として非ステロイド抗炎症薬投与を投与する。	7	8	7	7.5	8	7
3 整形外科手術の周術期には生物学的製剤の休薬を指示する。	6	8	5	4.5	7	6
4 RA患者に対する運動療法を推奨する。	7	7	6.5	6	8	6
5 RA患者に対する患者教育を推奨する。	7	7	7	6	6	9
6 RA患者に対する作業療法を推奨する。	7	7	7	6	8	8
A 薬物治療が奏功して安定した経過をたどっているRA患者の日常的な診療を行う。	8	7	8	7.5	9	8
II. 以下の項目は、関節リウマチ(RA)診療の専門医に任せていただきたい	Median	Median	Median	Median	Median	Median
1 RA患者の疾患活動性改善を目的として抗リウマチ薬のレフルノミド(アラバ)を投与する。ただし日本人における副作用発現のリスクを十分に勘案し、慎重に投与する。	9	9	9	9	9	9
2 RA患者の疾患活動性改善を目的として抗リウマチ薬のタクロリムス(プログラフ)を投与する。	9	9	8.5	9	9	9
3 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のインフリキシマブ(レミケード)を投与する。	9	9	9	9	9	9
4 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のエタネルセプト(エンブレル)を投与する。	9	9	8.5	9	9	9
5 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のアダリムマブ(ヒュミラ)を投与する。	9	9	9	9	9	9
6 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のゴリムマブ(シンボニー)を投与する。	9	9	9	9	9	9
7 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のセルトリズマブ(シムジア)を投与する。	9	9	9	9	9	9
8 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のトシリズマブ(アクテムラ)を投与する。	9	9	9	9	9	9
9 疾患活動性を有するRA患者に対して生物学的製剤のアバタセプト(オレンシア)を投与する。	9	9	9	9	9	9
10 合併症を有するRA患者に対する抗リウマチ薬や生物学的製剤の投与は、リスクとベネフィットを考慮する。	9	9	9	9	9	9
11 妊娠・授乳中のRA患者に対する抗リウマチ薬や生物学的製剤の投与は、リスクとベネフィットを考慮する。	9	9	9	9	9	9
A 診断が確定していない早期関節炎患者の診断と治療方針の決定を行う。	9	9	9	8	9	9
B RAに起因する関節手術が必要な場合の手術を行う。	9	7	9	9	7	9
C RAに起因する関節手術実施後の整形外科的な経過観察を行う。	7	6	9	8	5	x

#### D. 考察

関節リウマチ診療ガイドラインはリウマチ診療の専門医向けのものとして作成し発表した。しかし、関節リウマチの診療は、我が国におけるリウマチ専門医の地域偏在もあって一般医家に対応することも少なくない。しかし、適切な初期の対応が関節リウマチの予後を左右するため、一般医家向けの診療ガイドラインの策定は検討すべき課題である。しかしながら、専門医向けのガイドラインを一般医向けのガイドラインに改定する標準手法は存在せず、新たな方法の確立が必要であり、プロトタイプとなるべき方法の開発を目指した。

専門医を対象とした診療ガイドラインに記載された37の推奨文と、それ以外に日常診療で遭遇すると思われる8つのシナリオについて、一般医に推奨できるか否かを専門医がDelphi法で合意形成を行った。その結果、診断が必ずしも容易ではない早期関節炎の診断と治療方針の決定や、生物学的製剤を含む専門的知識を要する薬物治療、合併

病態を有する患者の治療、関節リウマチに起因する関節手術などは主として専門医が行うべき医療である、薬物治療が奏功して安定的な経過をたどっている患者の日常診療や、基本的な薬剤の投与、非薬物的治療などは一般医に推奨できる医療であることが明確になった。

次に、この専門医の考えが、非専門医にとって受容可能であるか否かを、非専門医に調査した。その結果RA診療の専門医以外にもお願いしたい項目は、ほぼ全員の同意を得た。RA診療の専門医に任せていただきたい項目では、特に生物学的製剤の使用は専門医に任せるべきという非専門医の考えが明確になった。RA診療の専門医以外にもお願いしたい項目のなかで「整形外科手術の周術期には生物学的製剤の休薬を指示する。」が比較的低い同意度であったことは注目すべきであり、この件に関して専門医から非専門医への情報提供と啓発活動が必要と思われた。

## E. 結論

一般医に向けた関節リウマチ治療のガイドライン策定の必要性が認識できたが、その作成方法の開発が必要であることがわかった。

関節リウマチ診療ガイドライン 2014 に記載された37の推奨文の中には専門医に任せる必要がない医療と専門医に任せたい医療があることが明らかになった。また、患者の病態や治療経過により専門医と一般医が連携して治療に当たることが適切な治療であることも示唆した。

RA診療ガイドラインJCR2014に記載された各推奨文を「RA診療の専門医以外にもお願いしたい項目」「RA診療の専門医に任せたい項目」に分ける試みは、非専門医から概ね評価を得ることができた。診療ガイドラインに記載された推奨文を日常診療で活用するための方法論として有益な試みであったと考える。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

・関節リウマチ診療ガイドライン 2014。日本リウマチ学会編集 メディカルレビュー社 2014年10月

・Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H. Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and meta-analysis. Mod Rheumatol. 2015 Sep;25(5):672-8.

・Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H. The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach. Mod Rheumatol. 2016;26(2):175-9.

・Kojima M, Nakayama T, Otani T, Hasegawa M, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Miyasaka N, Yamanaka H. Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan Mod Rheumatol. 2017 Jan 25:1-6. [Epub ahead of print]

### 2. 学会発表

・山中 寿、小嶋雅代、川人豊、他。RA 診療ガイドライン 2014：厚労省研究班案（1）作成法と経緯。第58回日本リウマチ学会総会・学術集会。2014年4月24日 東京。

・山中 寿 関節リウマチ診療ガイドライン JCR2014に基づく一般医向け診療ガイドラインの作成 2018年4月 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会(福岡) シンポジウム「膠原病・リウマチ性疾患の診療ガイドライン」発表予定

## H. 知的財産権の出願・登録

なし

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
難治性疾患等政策研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業  
（免疫アレルギー疾患政策研究分野））  
総合研究報告書

関節リウマチ診療データベース解析からみた関節リウマチ治療の標準化に関する研究

研究分担者・分科会長

針谷正祥 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターリウマチ性疾患薬剤疫学研究部門 特任教授

研究分担者

酒井良子 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターリウマチ性疾患薬剤疫学研究部門 特任助教

天野宏一 埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 教授

金子裕子 慶応義塾大学医学部 リウマチ内科 専任講師

川上 純 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座 教授

松井利浩 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座 准教授

研究要旨 関節リウマチ(RA)臨床疫学データベース分科会では、中・高疾患活動性関節リウマチ患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究(T2T 疫学研究)、日本における分子標的治療薬使用関節リウマチ患者に関するアウトカム研究(CORRECT 研究)、大規模保険データベースを用いた我が国の RA 患者における合併症リスクの検討(保険データベース解析)を、平成 26 年度から 28 年度の 3 年間で実施した。T2T 疫学研究では、24 週時の SDAI 寛解達成が 72 週時の構造的寛解、機能的寛解の有意な予測因子であることが示された。CORRECT 研究では、日本における生物学的製剤使用関節リウマチ患者に関する疫学研究(REAL 研究)のデータベースと患者背景因子や RA 治療内容、疾患活動性、重篤な有害事象の内容および罹患率を比較した。その結果、REAL 症例と比較して CORRECT 症例では、より早期からメトトレキサートや分子標的治療薬が開始され、寛解を達成した患者の割合が高い傾向にあった。保険データベース解析では、RA 群の方が非 RA 群と比較して、心血管障害、骨折、入院を要する感染症の合併リスクが有意に高いことが示された。RA の治療ゴールである Quality of Life(QOL)の改善を達成するためには、目標に向けた治療による疾患活動性の制御、関節破壊の抑制に加えて、合併症のリスク因子の評価および管理の重要性をリウマチ医が認識・実施することが重要である。

A. 研究目的

RA 臨床疫学データベース分科会は、関節リウマチ (RA)診療の均てん化、標準化に必要な、現行の RA 診療の実態解析と問題点の抽出を目的として、RA の臨床疫学研究を実施した。その研究には、RA 診療専門医療機関が参加する多施設共同研究によって作成されるデータベース、および全国の幅広い医療機関の保険請求データから作成される Japan

Medical Data Center Claims Data (JMDC Claims Data) の両者を用いた。

B. 研究方法

1) 中・高疾患活動性関節リウマチ患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究 (T2T 疫学研究)

本研究では、米国リウマチ学会/欧州リウマチ学会

新分類基準を満たす中等度疾患活動性以上(SDAI > 11 または CDAI > 10)の RA 患者、 RA による腫脹関節数 2 個以上、かつ圧痛関節数 2 個以上を有する患者、 成人かつ本研究への参加に関する同意を文書にて得られる患者、 生物学的製剤を未使用の RA 患者、 登録時に抗リウマチ薬を開始・変更・追加する患者、 定期的な外来通院が可能な患者を対象とした。主治医が T2T の治療アルゴリズムに沿って 3 か月毎に治療の有効性を評価し、治療を見直した。主要評価項目は、試験開始時と比較した 72 週後の HAQ 等の評価による機能的予後および vdH-modified Total Sharp Score (vdH-mTSS) での構造的予後の規定因子である。

## 2) 日本における分子標的治療薬使用関節リウマチ患者に関するアウトカム研究(CORRECT 研究)

ACR/EULAR2010 年新分類基準を満たす日本人 RA 患者、本研究の参加同意が文書で得られ 20 歳以上の患者、MTX または分子標的治療薬を新たに開始する患者、を満たす患者を登録し、MTX 群、Targeted therapy 群(TT 群)に分けて、登録時から 6 か月毎にデータを最長 3 年間収集した。

## 3) 大規模保険データベースを用いた我が国の RA 患者における合併症リスクの検討(保険データベース研究)

2005 年 1 月から 2014 年 12 月に健康保険組合への在籍が最低 6 か月間確認できた被登録者のうち、2005 年 1 月から 2013 年 12 月に RA の診断コード(M05, M060, M062, M063, M068, M069)を一回以上付与されかつ何らかの抗リウマチ薬が一回以上処方された 18 歳以上の患者を RA 群とした。2005 年 1 月から 2014 年 12 月に除外コード(M061, M064)が一度でも付与された患者は RA 患者から除外した。非 RA 患者は、同期間中に健康保険組合への在籍が最低 6 か月間確認できた被登録者のうち、RA の診断名が一度も付与されず抗リウマチ薬が一度も処方されなかった 18 歳以上の被登録者の中から RA 患者 1 例に対し、年齢(±5 才)、性別、観察期間、観察開始年でマッチングした 5 例とした。観察期間内に CVD の診断名が付与され、かつ本研究で定義した当該合併症の治療薬

が処方あるいは当該合併症に対する診療行為がなされた場合に当該合併症の罹患と定義した。骨折は診断名が付与された場合に罹患と定義した。また、入院中に感染症の診断名が付与され、かつ感染症に対する治療薬が処方された場合に入院を要する感染症(HI)の罹患と定義した。

### (倫理面への配慮)

T2T 疫学研究および CORRECT 研究については、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、およびヘルシンキ宣言を遵守して研究を実施した。実施医療機関の倫理審査委員会に研究計画書を提出し、承認後に研究を実施した。保険データベース研究は、連結不可能匿名化されたデータであり、倫理審査は不要であった。

## C. 研究結果

1) T2T 疫学研究: 318 例の登録症例中、72 週までフォロー可能であった 271 例を対象に解析した。24 週時では 34%、72 週時では 51%が Simplified Disease Activity Index (SDAI)寛解を達成した。登録時 28%が Health Assessment Questionnaire-Disability Index (HAQ-DI) 0.5 であったが、72 週時では 62%が HAQ-DI 0.5 であった。72 週時 van der Heijde-modified total Sharp score (vdH-mTSS)が評価できた 264 例の smallest detectable change (SDC)は 2.98 であり、264 例中 205 例(78%)が vdH-mTSS < SDC であった。多変量ロジスティック回帰分析の結果、72 週時 HAQ 寛解の有意な予測因子[オッズ比(95%信頼区間), P 値]は 24 週時 SDAI 寛解 [2.99(1.42-6.28), P=0.004]、登録時 HAQ-DI [0.28(0.18-0.45), P=1.3 × 10<sup>-7</sup>]、登録時 vdH-mTSS [0.986(0.976-0.996), P=0.009]であった。72 週時 vdH-mTSS < SDC の有意な予測因子は 24 週時 SDAI 寛解 [3.53(1.62-7.71), P=0.002]であった。

2) CORRECT 研究: MTX 群、TT 群のいずれにおいても、CORRECT 症例は REAL 症例と比較して、罹病期間が短く、Stage 分類が III または IV の患者の割合や Class 分類が 3 または 4 の患者の割合が少ない傾向だった。過去に使用した疾患修飾性抗リウマチ薬(DMARDs)の数が 3 つ以上の患者の割合、経口副腎



皮質ステロイドの使用率も REAL 症例と比較して CORRECT 症例で低い傾向だった。MTX 群において、3 年間の MTX の投与量(中央値)は REAL 症例では 6 から 8mg/週を、CORRECT 症例では 8 から 10mg/週を推移していた。TT 群において、登録時の分子標的薬の内訳は REAL 症例ではインフリキシマブが 41.4%と最も多く、続いてエタネルセプトが 39.6%、トシリズマブが 10.5%、アダリムマブが 8.4%、アバタセプトが 0.1%だった。CORRECT 症例ではトシリズマブが 26.2%と最も多く、続いてインフリキシマブとエタネルセプトがそれぞれ 17.4%、アバタセプトが 13.1%、アダリムマブが 12.8%、ゴリムマブが 6.0%、トファシチニブが 4.7%、セルトリズマブペゴルが 2.3%だった。分子標的薬フリーの患者の割合は、REAL 症例と比較していずれの時点においても高い傾向だった。両群において DAS28 (3)CRP 2.6 未満の患者の割合は 0.5, 1, 2, 3 年経過時点でいずれも REAL 症例と比較して CORRECT 症例で高い傾向だ TT 群においても同様の傾向だった。重篤な有害事象、重篤な感染症の罹患率に両群間で差を認めなかった。

3) 保険データベース研究：年齢の中央値および女性の割合は両群共に 52 歳、75.6%だった。観察期間の中央値は両群共に 28 か月だった。脳心血管疾患全体の IRR は 1.63 (1.33-1.99) と有意に高く、心血管疾患 (IRR 1.89 [1.49-2.41])、虚血性心疾患 (IRR 1.53 [1.13-2.07])、心不全 (2.91 [1.94-4.36]) も有意な上昇を認めた。脳血管疾患は有意な上昇を認めなかった (IRR 1.19 [0.82-1.72])。骨折全体の IRR は 3.35 [2.80-4.02] と有意な上昇を認め、男女共に IRR は有意に高かった。HI 全体の IRR は 2.47 (2.20-2.77) と有意に高くいずれの部位においても IRR は有意に高かった。ベースラインデータで調整後も、RA 患者におけるこれらの合併症リスクは有意な上昇を示した。

#### D. 考察

改訂 T2T リコメンデーションでは、RA の主要な治療ゴールは症状のコントロール、関節破壊などの構造的変化の抑制、身体機能の正常化、社会活動、労働活動への参加を通じて、患者の長期的 QOL を最

大限まで改善することである」と述べている。当分科会で実施した T2T 疫学研究で示されたように、関節破壊などの構造的変化の抑制、身体機能の正常化を達成するために、治療開始 24 週後の臨床的寛解 (SDAI 寛解) 達成が重要である。一方、HAQ の構成要素には、疾患活動性と関節破壊が挙げられ、それぞれ、activity HAQ、damage HAQ と呼ばれている。Radner ら (Rheumatology (Oxford). 2011 Feb;50(2):381-8) は、合併症が増えるにしたがって、他の因子を調整しても、HAQ、および SF-36 の physical component が悪化すること、Multimorbidity index が高いほど、グループレベルの疾患活動性制御が悪化すること (Rheumatology (Oxford). 2015 Nov;54(11):2076-84) を報告した。これらの報告を踏まえると、HAQ の構成要素として comorbid-HAQ を加える必要があると考えられる(図)。今回の保険データベース研究、および欧米の先行研究結果から、RA 患者は脳心血管疾患、骨折、入院を要する感染症などの合併頻度が高く、日常診療においてこれらの疾患の予防あるいは治療は RA 診療の一部として認識しなければならないことを示している。

#### E. 結論

RA の治療ゴールを達成するためには、合併症のリスク因子の評価および管理の重要性をリウマチ医が認識し、確実に実施することが重要である。QOL における合併症の重要性を考慮すると、RA の診療 = 関節炎の治療という認識では不十分であり、これらの点を今後の RA 診療ガイドラインにも反映させていく必要がある。

#### F. 健康危険情報

なし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- Hirano F, Amano K, Kaneko Y, Matsui T, Sakai R, Harigai M et al.; T2T Epidemiological Study Group..

Achieving simplified disease activity index remission in patients with active rheumatoid arthritis is associated with subsequent good functional and structural outcomes in a real-world clinical setting under a treat-to-target strategy. *Mod Rheumatol.* 2016 Dec 21:1-9. [Epub ahead of print]

- Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, Sugihara T, Nagasaka K, Hagiwara H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Simplified Disease Activity Index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month 12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan. *Mod Rheumatol.* 2016 Dec 15:1-8. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27846756.
- Sugihara T, Harigai M. Targeting Low Disease Activity in Elderly-Onset Rheumatoid Arthritis: Current

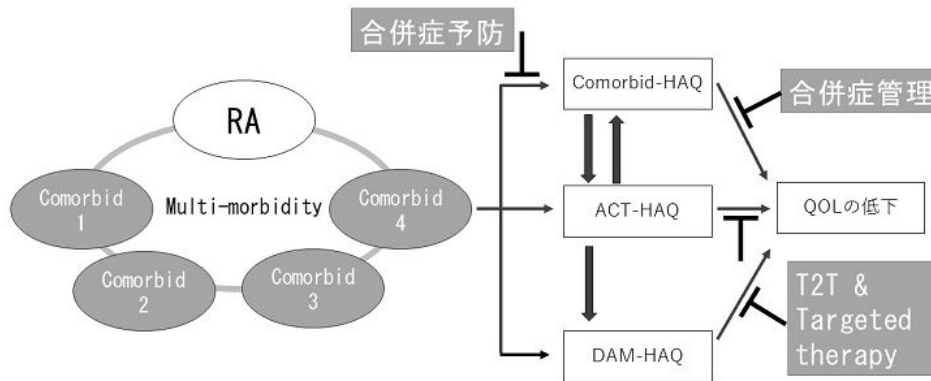
and Future Roles of Biological Disease-Modifying Antirheumatic Drugs. *Drugs Aging.* 2016 Feb;33(2):97-107.

2. 学会発表

- R. Sakai, S. Kasai, F. Hirano et al. Incidence rate and the risk of herpes zoster in patients with rheumatoid arthritis using Japanese health insurance database. Annual European Congress of Rheumatology (EULAR) 2016. London, England
- F. Hirano, W. Yokoyama, H. Yamazaki et al. SDAI remission at week 24 is a predictor of good functional and structural outcomes at week 72 in a T2T implementing cohort. Annual European Congress of Rheumatology (EULAR) 2015. Rome, Italy

H. 知的財産権の出願・登録  
なし

## 合併症予防・管理を踏まえたRA治療戦略



関節リウマチ(RA)の治療目標を達成するには、T2T 戦略と分子標的治療を効果的に用いて、疾患活動性による Activity-HAQ (ACT-HAQ)、構造的損傷による Damage-HAQ (DAM-HAQ)の悪化を制御すると同時に、合併症の予防と管理を積極的に行うことにより、Comorbid-HAQ の悪化をなるべく低く抑えることが極めて重要である。

## 超音波検査をツールにした関節リウマチ診療拠点病院ネットワークの構築

研究分担者・分科会長

小池隆夫 NTT 東日本札幌病院 院長、北海道大学 名誉教授

研究分担者

川上 純 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学講座リウマチ・膠原病内科学分野 教授

池田 啓 千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科 助教

大野 滋 横浜市立大学付属市民総合医療センターリウマチ膠原病センター 准教授

**研究要旨** 関節リウマチ診療の地域間格差および施設間格差を是正するためには、各地域に関節リウマチ拠点病院を設置することが必要不可欠である。近年、リウマチ診療における関節超音波検査の有用性が広く認識されるようになったが、関節超音波検査は関節リウマチの特徴的な病態を明確に描出するため、リウマチ診療に極めて有用である。そこで本分担研究では、関節超音波検査を診療のツールとして用い、日本リウマチ学会超音波標準化委員会とともにその普及と標準化活動を行うことにより、高度かつ標準化された関節リウマチ診療を提供可能な拠点病院を形成し、それらの病院のネットワーク構築を目指して3年間の研究を行ってきた。このことにより、「本邦の関節リウマチ診療の均てん化」が可能になると思われる。

### A.研究目的

本研究は関節リウマチ診療の地域間格差、施設間格差を是正するために「超音波検査をツールにした関節リウマチ診療拠点病院ネットワークの構築」を目的とする。そのために3年間にわたり1)超音波検査を用いた早期関節リウマチ診断基準の確立とそれを用いた早期治療介入およびタイトコントロールの有効性の検討 2)関節超音波検査のピットフォールの同定とコンセンサスの形成 3)関節超音波検査の普及と教育活動の検討の3点につき研究事業を展開した。

### B.研究方法

1)超音波検査を用いた早期関節リウマチ診断基準

の確立とそれを用いた早期治療介入およびタイトコントロールの有効性の検討

超音波検査を用いた「早期関節リウマチ診断基準」の最終案を作成する。また、それを用いた「早期治療介入」および「タイトコントロール」の有効性をさらに検討する。本研究班の研究成果に基づきガイドラインなどに反映できるエビデンスの構築を目指す。

2)関節超音波検査のピットフォールの同定とコンセンサスの形成

滑膜病変評価における偽陽性ピットフォールを同定し、多施設でコンセンサスの形成を行い、参照資料

を作成する。

### 3) 関節超音波検査の普及と教育活動の検討

標準化された指針とモデルを用い、日本リウマチ学会各支部において、超音波検査講習会を実施し、関節リウマチ診療の標準化を図る。より習熟度の高い検者を全国より募り、中級者向けの講習会を行い、アンケート調査等から講習会の研修効果を評価する。また「日本リウマチ学会登録ソノグラファー制度」をより充実させるための方策を提言する。

## C. 研究結果 (平成 26-28 年度)

### 1) 超音波検査を用いた早期関節リウマチ診断基準の確立とそれを用いた早期治療介入およびタイトコントロールの有効性の検討

(1)超音波を用いた早期関節リウマチ分類基準の提言および(2)超音波を用いた関節リウマチ多施設共同研究の推進を試みた。

(1)発症6か月以内の無治療患者を対象にレトロスペクティブに解析した。まず、長崎大学病院216例の解析により、パワードップラ(PD)グレード2以上の滑膜炎あるいはPDグレード1以上の滑膜炎かつRF/ACPA陽性で最も診断精度が高いことが分かった。次に諫早総合病院223例の解析でも同様の結果が得られ、実地診療におこる適応性が証明された。

(2)九州地区のリウマチ診療専門施設における分子標的治療薬を導入した関節リウマチ症例を対象に、超音波をキーワードにした多施設共同研究を導入した。平成28年12月末の時点で関節リウマチ250例が登録された。一部の解析結果として、治療6ヶ月における超音波所見の治療反応性には、治療前のPDスコアに加え、生物学的製剤の使用歴が関連している可能性が示唆された。以上の結果より、超音波検査は関節リウマチの分類および治療評価に極めて有用であることが確認できた。

### 2) 関節超音波検査のピットフォールの同定とコンセンサスの形成

系統的文献レビューでは、11件の超音波検査による滑膜炎または腱鞘滑膜炎評価の偽陽性に関連する文献が同定された。それに基づき21の偽陽性の要因の候補が挙げられ、その中で11の要因でコンセンサスが得られた。それらはI. グレースケール評価に関するものとII. ドプラ評価に関するものに分類され、前者はさらにA. 非特異的な滑膜所見、およびB. 低輝度または異方性により滑膜肥厚と混同されやすい解剖構造、後者はさらにA. 関節包内の正常血管、ならびにB. 多重反射に分類された。これらの項目を示す、49点の静止画と23点の動画を含む、24の健常者の関節例につき、コンセンサスが得られた。

### 3) 関節超音波検査の普及と教育活動の検討

平成23年に「関節超音波撮像法ガイドライン」、平成26年に「関節超音波評価ガイドライン」がそれぞれ発表された。EULARの関節超音波講習会開催に関する推奨に準拠する形で指針を作成した。講師一人当たりの受講者数を制限すること、全体の半分以上の時間を実習にあてること、関節リウマチ患者を対象に実習する時間を設けることなどが記載された。平成24年に日本リウマチ学会近畿支部、関東支部において初心者向け講習会が開催された。平成25年からは全ての支部で初心者向け講習会が毎年開催されている。受講者はこれまでに全国で計761人にのぼっている。現状では定員に対して応募者が概ね上回っており、少なくとも今後数年は毎年200人ずつ増加していくことが予想される。さらにアドバンスコースは平成25年から毎年開催されている。参加者アンケートの結果は毎回ほぼ同様であり、講習会全体および講義、各実習の満足度は良好であった(平均6.2~8.5[10段階評価])。講義スライド・配布資料の充実、より多くの患者を対象とした実習を望む意見があった。本年度までの4年間で160人が受講した。(3)平成26年に日本リウマチ学会登録ソノグラ

ファー制度の規則・カリキュラムを作成した。平成26年に登録ソノグラファー制度を制定以来、昨年まで2年間で349人が登録した。

#### D. 考察

1) 簡易で客観的な指標である超音波と自己抗体を組み合わせることで、早期に治療導入が必要な症例を分類することができた。異なる施設においても同様の分類基準で高い診断能が保たれていた。また、簡易な指標であるため熟達者・ハイエンド機器でなくても少ないバラツキで評価できる可能性がある。

九州地区における超音波をキーワードにした前向きな多施設共同研究も順調に推移し、超音波を用いたリウマチ診療の広がりが確認できた。本研究は、臨床と研究の両面における全国的な診療拠点病院ネットワークの足がかりとなり得る。

2) 関節超音波による滑膜病変評価における偽陽性が、初めて系統的に検討された。関節超音波検査における偽陽性の要因は偽陰性のものと比して認識されにくく、今回の結果と参照画像は、関節超音波による滑膜病変評価の特異性を向上させる貴重な資料となる。また本研究結果は、今後個々の関節における特異的なピットフォールを検討する上で、有用な枠組みを提供することが期待される。

3) 関節超音波は若手・将来のリウマチ専門医への普及のために、欧州の一部の国々にならひ、リウマチ専門医試験の受験資格への組み込みが考慮されるべきである。これまでの実技講習会の受講者は医師が多かったが、わが国の現状を考慮すると臨床検査技師への本検査の普及が今後望まれる。

これまでのエコー講習会に加え、より多くの学習のための機会が望ましい。日本リウマチ学会主催の各種教育研修会で関節超音波検査をテーマとしたり、e-learningやイメージライブラリーといったコンテンツの作成も考慮される。今後必要不可欠である臨床検査技師の教育のためには超音波検査学会との協

力や技師向けのコンテンツの整備も必要と思われる。

登録ソノグラファー制度に関して、その周知のために超音波関連の他学会との協力が課題である。より魅力的な制度（登録することのメリット）とするためにインタラクティブ・ケースカンファレンスの開催、登録ソノグラファー向けの講習会（解剖・疾患に関する講義）や登録ソノグラファーの資格の維持・更新の簡略化、新たに認定ソノグラファー制度の制定などが課題である。その他の課題として保険点数請求に関する課題の克服、各施設で共有できる関節エコー検査結果報告書の作成などが挙げられる。より長期の目標として、関節リウマチ診療の標準化のために、わが国の実情に合わせた独自の関節エコー診療ガイドラインの整備が挙げられる。

#### E. 結論

関節超音波をツールにして、検査の普及/教育活動を通じて、関節リウマチ診療拠点病院のネットワークを我が国に構築する事を目的に本研究分科会活動を行った。

超音波を用いた早期関節リウマチ診断（分類）基準の提示が出来た。また、超音波を用いたリウマチ診療の有用性と広がりが確認された。

関節超音波検査の標準化のために、滑膜病変の偽陽性に関わる要因を本領域のエキスパートのコンセンサスにより同定し、その参照画像集を提供する準備が整った。

関節超音波ガイドラインの作成、日本リウマチ学会関節超音波講習会の開催、日本リウマチ学会登録ソノグラファー制度の導入を通じて我が国でも関節超音波検査が普及しつつあり、それによりリウマチ診療の標準化が期待できる。その証明のための多施設共同臨床研究などを通じた日本発のエビデンスの発信の準備が整い、本研究の最終目的である「関節リウマチ診療拠点病院ネットワークの構築」が出来つつある。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Fukae J, Tanimura K, Atsumi T, Koike T. Sonographic synovial vascularity of synovitis in rheumatoid arthritis. *Rheumatology, (Oxford)* 53(4):586-91, 2014.
2. Koike T. My contribution, my dream – a look at the future of APS. *Lupus.* 23(12) :1332-1334,2014.
3. Fukae J, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Shimizu M, Tanimura K, Matsuhashi M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T. Structural deterioration of finger joints with ultrasonographic synovitis in rheumatoid arthritis patients with clinical low disease activity. *Rheumatology, (Oxford)* 53(9): 1608-12, 2014.
4. Kasahara H, Nakamura H, Shinohara M, Koike T. AP-VAS 2012 case report: an atypical case of microscopic polyangiitis presenting with acute tubulointerstitial nephritis without glomerular change. *CEN Case Rep.*3: 1-4, 2014.
5. Ikeda K, Koike T, Wakefield R, Emery P. Is the glass half full or half empty? Comment on the article by Gartner et Al. *Arthritis Rheumatol.*66(4): 1055-6,2014.
6. Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Sakamaki Y, Desiree van der Heijde, Miyasaka N, Koike T. Efficacy and safety of certolizumab pegol plus methotrexate in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate: the J-RAPID randomized, placebo-controlled trial. *Mod Rheumatol.*24(5): 552-60, 2014.
7. D'Ippolito S, Meroni PL, Koike T, Veglia M, Scambia G, Di Simone N. Obstetric antiphospholipid syndrome: a recent classification for an old defined disorder. *Autoimmun Rev.*13(9): 901-8, 2014.
8. Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T. Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients who could not receive methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the HIKARI study. *Mod Rheumatol.*24(5): 725-733, 2014.
9. Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T. Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the J-RAPID study. *Mod Rheumatol.*24(5): 734-743, 2014.
10. Harigai M, Mochida S, Mimura T, Koike T, Miyasaka N. A proposal for management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy. *Mod Rheumatol.*24(1): 1-7, 2014.
11. Koike T, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Haruna S, Ushida N, Kawana K, and Tanaka Y. Safety and effectiveness of adalimumab in Japanese rheumatoid arthritis patients: Postmarketing surveillance report of 7740 patients. *Mod Rheumatol.*24(3): 390-398, 2014.
12. Koike T, Harigai M, Inokuma S, Ishiguro N, Ryu J, Takeuchi T, Takei S, Tanaka Y, Sano Y, Yaguramaki H, Yamanaka H. Effectiveness and Safety of Tocilizumab: Postmarketing Surveillance of 7901 Patients with Rheumatoid Arthritis in Japan. *J Rheumatol.*41(1): 15-23, 2014.
13. Ikeda K, Seto Y, Narita A, kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T. Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint. *Arthritis*

- Rheum.66(3): 523-532, 2014.
14. Ikeda K, Seto Y, Sakamoto F, Henmi M, Fukae J, Narita A, Nakagomi D, Nakajima H, Tanimuera K, Koike T. Analysis of the factors which influence the measurement of synovial power Doppler signals with semi-quantitative and quantitative measures- a pilot multicenter exercise in Japan. *Mod Rheumatol.*24(3): 419-425, 2014.
  15. Ikeda K, Kambe N, Takei S, Nakano T, Inoue Y, Tomiita M, Oyake N, Satoh T, Yamatou T, Kubota T, Okafuji I, Kanazawa N, Nishikomori R, Shimojo N, Matsue H, Nakajima H. Ultrasonographic assessment reveals detailed distribution of synovial inflammation in Blau syndrome. *Arthritis Res Ther.* 16: R89, 2014.
  16. Iwamoto T, Ikeda K, Hosokawa J, Yamagata M, Tanaka S, Norimoto A, Sanayama Y, Nakagomi D, Takahashi K, Hirose K, Sugiyama T, Sueishi M, Nakajima H. Prediction of relapse after discontinuation of biologic agents by ultrasonographic assessment in patients with rheumatoid arthritis in clinical remission: high predictive values of total gray-scale and power Doppler scores that represent residual synovial inflammation before discontinuation. *Arthritis Care Res (Hoboken).* 66: 1576-1581, 2014.
  17. Gorai M, Ogasawara M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. Weighting with the Lansbury articular index improves the correlation of ultrasound score with serum matrix metalloproteinase-3 level in rheumatoid arthritis patients. *Mod Rheumatol.* 24(6): 915-9, 2014.
  18. Nemoto T, Ogasawara M, Matsuki Y, Murayama G, Yamada Y, Sugisaki N, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. Can routine clinical measures predict ultrasound-determined synovitis and remission in rheumatoid arthritis patients? *Clin Exp Rheumatol.* 32(1): 54-60, 2014.
  19. Kawashiri SY, Suzuki T, Nakashima Y, Horai Y, Okada A, Nishino A, Iwamoto N, Ichinose K, Arima K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Uetani M, Aoyagi K, Eguchi K, Kawakami A. Synovial inflammation assessed by ultrasonography correlates with MRI-proven osteitis in patients with rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford).* 53(8): 1452-6, 2014.
  20. Koike T. Antiphospholipid syndrome: 30 years and our contribution. *Int J Rheum Dis.* 18(2):233-41, 2015.
  21. Yamanaka H, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Suzuki H, Shinmura Y, Koike T. Trend of patient characteristics and its impact on the response to adalimumab in patients with rheumatoid arthritis: post hoc time-course analysis of an all-case PMS in Japan. *Mod Rheumatol.* 25(4): 495-502, 2015.
  22. Kaneko Y, Koike T, Oda H, Yamamoto K, Miyasaka N, Harigai M, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Takeuchi T. Obstacles to the implementation of the treat-to-target strategy for rheumatoid arthritis in clinical practice in Japan. *Mod Rheumatol.* 25(1): 43-49, 2015.
  23. Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N and Koike T. Early response to certolizumab pegol predicts long-term outcomes in patients with active rheumatoid arthritis: results from the Japanese studies. *Mod Rheumatol.* 25(1): 11-20, 2015.
  24. Kataoka H, Yasuda S, Fukaya S, Oku K, Horita T, Atsumi T, Koike T. Decreased expression of Runx1 and lowered proportion of Foxp3 + CD25 + CD4 + regulatory T cells in systemic sclerosis. *Mod Rheumatol.* 25(1): 90-5, 2015.
  25. **Takeuchi T, Miyasaka N, Inui T, Yano T, Yoshinari T, Abe T, Koike T. Prediction of clinical response after 1 year of infliximab therapy in rheumatoid arthritis based on disease activity at 3 months: posthoc analysis of the RISING study. J Rheumatol.**

**42(4):599-607, 2015.**

26. Kono M, Yasuda S, Stevens RL, Koide H, Kurita T, Shimizu Y, Kanetsuka Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Shimizu T, Majima T, Koike T, Atsumi T. **Ras guanine nucleotide-releasing protein 4 is aberrantly expressed in the fibroblast-like synoviocytes of patients with rheumatoid arthritis and controls their proliferation.** *Arthritis Rheumatol.* 67(2):396-407, 2015.
27. Moutsopoulos HM, Sugai S, Sawada S, Koike T, Miyasaka N, Kobayashi S, Takei M, Ogawa N. Professor Norman Talal 1934-2015. *Mod Rheumatol.*25(4): 664, 2015.
28. Hiraga M, Ikeda K, Shigeta K, Sato A, Yoshitama T, Hara R, Tanaka Y. Sonographic measurements of low-echoic synovial area in the dorsal aspect of metatarsophalangeal joints in healthy subjects. *Mod Rheumatol.*25: 386-392, 2015.
29. Bruyn GA, Naredo E, Iagnocco A, Balint PV, Backhaus M, Gandjbakhch F, Gutierrez M, Filer A, Finzel S, Ikeda K, Kaeley GS, Manzoni SM, Ohrndorf S, Pineda C, Richards B, Roth J, Schmidt WA, Terslev L, D'Agostino MA. The OMERACT Ultrasound Working Group 10 Years On: Update at OMERACT 12. *J Rheumatol.* 42: 2172-2176, 2015.
30. Ikeda K, Yamagata M, Tanaka S, Yokota M, Furuta S, Nakajima H. Synovitis and osteitis in the left sternoclavicular joint in a 60-year-old woman. *J Med Ultrasonic.* 42: 133,2015.
31. Hiraga M, Ikeda K, Shigeta K, Sato A, Yoshitama T, Hara R, Tanaka Y. Sonographic measurements of low-echoic synovial area in the dorsal aspect of metatarsophalangeal joints in healthy subjects. *Mod Rheumatol.* 25: 386-392, 2015.
32. Yoshimi R, Ihata A, Kunishita Y, Kishimoto D, Kamiyama R, Minegishi K, Hama M, Kirino Y, Asami Y, Ohno S, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y. A novel 8-joint ultrasound score is useful in daily practice for rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 25: 379-85, 2015.
33. Kirino Y, Hama M, Takase-Minegishi K, Kunishita Y, Kishimoto D, Yoshimi R, Asami Y, Ihata A, Oba MS, Tsunoda S, Ohno S, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y. Predicting joint destruction in rheumatoid arthritis with power Doppler, anti-citrullinated peptide antibody, and joint swelling. *Mod Rheumatol.*25: 842-8, 2015.
34. Tokai N, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Makino S, Takasaki Y. Predictive value of bone destruction and duration of clinical remission for subclinical synovitis in rheumatoid arthritis patients. *Mod Rheumatol.* 25(4): 540-5, 2015.
35. Atsumi T, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Okada T, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T. The first double-blind, randomised, parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naive early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors, C-OPERA, shows inhibition of radiographic progression. *Ann Rheum Dis.*75(1):75-83, 2016.
36. Tanaka Y, Takeuchi T, Miyasaka N, Sumida T, Mimori T, Koike T, Endo K, Mashino N, Yamamoto K. Efficacy and safety of rituximab in Japanese patients with systemic lupus erythematosus and lupus nephritis who are refractory to conventional therapy. *Mod Rheumatol.* 26(1):80-86, 2016.
37. Tsuru T, Tanaka Y, Kishimoto M, Saito K, Yoshizawa S, Takasaki Y, Miyamura T, Niuro H, Morimoto S, Yamamoto J, Lledo-Garcia R, Shao J, Tatematsu S, Togo O, Koike T. Safety, pharmacokinetics, and



pharmacodynamics of epratuzumab in Japanese patients with moderate-to-severe systemic lupus erythematosus: Results from a phase 1/2 randomized study.

Mod Rheumatol. 26(1):87-93, 2016.

38. Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T. Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis. Mod Rheumatol. 26(1):9-14, 2016.
39. Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Ishii Y, Nakajima H, Baker D, Miyasaka N, Koike T. Prevention of joint destruction in patients with high disease activity or high C-reactive protein levels: Post hoc analysis of the GO-FORTH study. Mod Rheumatol. 26(3):323-330, 2016.
40. Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Kobayashi M, Shoji T, Togo O, Miyasaka N, Koike T. Post-hoc analysis showing better clinical response with the loading dose of certolizumab pegol in Japanese patients with active rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol. 26(4): 473-480, 2016.
41. Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Miyasaka N, Koike T, Baker D, Ishii Y, Yoshinari T. Clinical efficacy, radiographic progression, and safety through 156 weeks of therapy with subcutaneous golimumab in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis despite prior methotrexate therapy: Final results of the randomized GO-FORTH trial. Mod Rheumatol. 26(4): 481-490, 2016.
42. Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Mimori T, Ryu J, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Takasaki Y, Yamanaka H, Watanabe M, Tamada H, Koike T. **Postmarketing surveillance of the safety and effectiveness of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis.** Mod Rheumatol. 26(4): 491-498, 2016.
43. Koike T, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Takasaki Y, Mimori T, Hisamatsu K, Komatsu S, Tanaka Y. Effect of methotrexate plus adalimumab on the achievement of rheumatoid arthritis therapeutic goals: Post Hoc analysis of Japanese patients (MELODY study). Rheumatol Ther. 3(1): 129-141, 2016.
44. Harigai M, Nanki T, Koike R, Tanaka M, Watanabe-Imai K, Komano Y, Sakai R, Yamazaki H, Koike T, Miyasaka N. Risk for malignancy in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs compared to the general population: A nationwide cohort study in Japan. Mod Rheumatol. 26(5): 642-50, 2016.
45. Otomo K, Amengual O, Fujieda Y, Nakagawa H, Kato M, Oku K, Horita T, Yasuda S, Matsumoto M, Nakayama KI, Hatakeyama S, Koike T, Atsumi T. Role of apolipoprotein B100 and oxidized low-density lipoprotein in the monocyte tissue factor induction mediated by anti- $\alpha$ 2 glycoprotein I antibodies. Lupus. 25(12): 1288-1298, 2016.
46. Mimori T, Harigai M, Atsumi T, Fujii T, Kuwana M, Matsuno H, Momohara S, Takei S, Tamura N, Takasaki Y, Ikeuchi S, Kushimoto S, Koike T. Safety and effectiveness of 24-week treatment with iguratimod, a new oral disease-modifying antirheumatic drug, for patients with rheumatoid arthritis: interim analysis of a post-marketing surveillance study of 2679 patients in Japan. Mod Rheumatol. Dec 21: 1-11, 2016.
47. Watanabe T, Takase-Minegishi K, Ihata A, Kunishita Y, Kishimoto D, Kamiyama R, Hama M, Yoshimi R, Kirino Y, Asami Y, Suda A, Ohno S, Tateishi U, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y. (18)F-FDG and

- (18)F-NaF PET/CT demonstrate coupling of inflammation and accelerated bone turnover in rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol*. 26: 180-7, 2016.
48. Fukuda W, Hanyu T, Katayama M, Mizuki S, Okada A, Miyata M, Handa Y, Hayashi M, Koyama Y, Arii K, Kitaori T, Hagiyaama H, Urushidani Y, Yamasaki T, Ikeno Y, Suzuki T, Omoto A, Sugitani T, Morita S, Inokuma S. Incidence of hepatitis B virus reactivation in patients with resolved infection on immunosuppressive therapy for rheumatic disease: a multicentre, prospective, observational study in Japan. *Ann Rheum Dis*. 2016 Dec 1 [Epub ahead of print], 2016.
49. Suzuki T, Yoshida R, Okamoto A, Seri Y. Semi-quantitative evaluation of extra-synovial soft tissue inflammation in the shoulders of patients with polymyalgia rheumatica and elderly-onset rheumatoid arthritis by power Doppler ultrasound. In press, 2017.
50. Kawashiri SY, Nishino A, Shimizu T, Umeda M, Fukui S, Nakashima Y, Suzuki T, Koga T, Iwamoto N, Ichinose K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, Kawakami A. Ultrasound disease activity of bilateral wrist and finger joints at three months reflects the clinical response at six months of patients with rheumatoid arthritis treated with biologic disease-modifying anti-rheumatic drugs. *Modern Rheumatology*. 1:1-5, 2016.
51. Nakashima Y, Tamai M, Kita J, Michitsuji T, Shimizu T, Fukui S, Umeda M, Nishino A, Suzuki T, Horai Y, Okada A, Nishimura T, Koga T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Ichinose K, Hirai Y, Arima K, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Takao S, Uetani M, Aoyagi K, Eguchi K, Kawakami A. Magnetic Resonance Imaging Bone Edema at Enrollment Predicts Rapid Radiographic Progression in Patients with Early RA: Results from the Nagasaki University Early Arthritis Cohort. *J Rheumatol*. 43(7): 1278-84, 2016.
52. Kobayashi Y, Ikeda K, Nakamura T, Yamagata M, Nakazawa T, Tanaka S, Furuta S, Umibe T, Nakajima H. Severity and Diurnal Improvement of Morning Stiffness Independently Associate with Tenosynovitis in Patients with Rheumatoid Arthritis. *PLoS One*. 11:e0166616, 2016.
53. Yamada Y, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Nakano S, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. The synovial grade corresponding to clinically involved joints and a feasible ultrasound-adjusted simple disease activity index for monitoring rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol*. 26:1-6, 2016.
54. Minowa K, Ogasawara M, Murayama G, Gorai M, Yamada Y, Nemoto T, Matsuki Y, Sugisaki N, Ando S, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y. Predictive grade of ultrasound synovitis for diagnosing rheumatoid arthritis in clinical practice and the possible difference between patients with and without seropositivity. *Mod Rheumatol*. 26(2):188-93, 2016.
55. 中込大樹, 池田 啓, 中島裕史. 関節超音波検査はACR/EULAR 分類基準の正確度を向上させる. *リウマチ科*. 51: 112-7, 2014.
56. 池田 啓. リウマチ診療のための関節エコー撮像法ガイドライン. *日本臨床*. 72: 710—3, 2014.
57. 池田 啓. 運動器疾患の超音波診断 関節リウマチ. *JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION*. 23: 582-7, 2014.
58. 池田 啓. 超音波で診る関節リウマチ. *Arthritis* 11: 164-9, 2014.
59. 池田 啓. 関節エコーは疾患活動性の指標としてどこまで役立つか. *分子リウマチ治療*. 7: 22-6, 2014.
60. 池田 啓, 古田俊介. RACAT (Rheumatoid Arthritis: Comparison of Active Therapies) 試験. *リウマチ科*. 52: 37-44, 2014.
61. 池田 啓. リウマチ性多発筋痛症の診断におけるEULAR/ACR 予備分類基準ならびに関節エコーの有用性. *臨床リウマチ*. 26:207-15, 2014.

62. 池田 啓. RA 診療における画像診断. *Modern Physician*. 34: 878-83, 2014.
63. 池田 啓. 関節リウマチの早期診断における高感度画像診断の意義. *Keynote RA*. 2:21-5, 2014.
64. 池田 啓. 関節リウマチの鑑別診断に有用な症状・身体所見. *日本内科学会雑誌*. 103: 2407-12, 2014.
65. 池田 啓. 関節リウマチ診療における高感度画像診断の意義. *Pharma Medica*. 32: 33-6, 2014.
66. 池田 啓. 関節エコーによる滑膜病変評価の最適化: 示指中手指節関節における予備検討. *リウマチ科*. 53: 187-94, 2015.
67. 池田 啓, 中島裕史. 関節エコーとバイオマーカーによる薬効評価と薬効予測. *炎症と免疫*. 23: 323-8, 2015.
68. 池田 啓. リウマチ性疾患の診療における関節エコーの有用性. *臨床病理*. 63: 580-9, 2015.
69. 池田 啓. 関節リウマチ診療における関節エコーの有用性. *Current Therapy*. 33: 827, 2015.
70. 池田 啓, 中島裕史. 乾癬性関節炎の本態: 付着部炎. *日本医事新報*. 4777:51, 2015.
71. 池田 啓, 中島裕史. 関節リウマチの画像診断の進歩. *日本医事新報*. 4783: 49, 2015.
72. 池田 啓. 骨関節疾患の診療における関節エコーの有用性. *Rheumatology Clinical Research*. 4:159-64, 2015.
73. 池田 啓. 関節エコー評価の落とし穴とは? *Keynote RA*. 5: 46-7, 2017.
74. 池田 啓. 関節痛の鑑別における筋骨格超音波検査の活用. *内科*. 119:297-9, 2017.
75. 池田 啓. Preclinical rheumatoid arthritis. *リウマチ科*. 57: 107-12, 2017.
76. 大野滋, 鈴木毅, 小笠原倫大. リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシピ. 南江堂. 東京. 2016.
77. 鈴木 毅, 小笠原倫大. 関節リウマチ(手首・手指). 石崎 一穂, 鈴木 毅, 藤原 憲太 編. これから始める運動器・関節エコー. メジカルビュー社. 東京. 190-238, 2015
78. 鈴木 毅. 手関節, 肩関節. 大野 滋, 鈴木 毅, 小笠原 倫大 編. リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシピ: 解剖学的視点とプローブ走査もわかる! 南江堂. 東京. 42-63, 78-91, 2016.
- 著書
- Bohgaki M, Koike T. Antiphospholipid Syndrome: clinical manifestations
- G. Tsokos ed. In "Systemic Lupus Erythematosus" basic, applied and clinical aspects; Academic press P 503-508, 2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 宮坂 信之

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Sakai R, Cho SK, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Amano K, Tanaka Y, Sumida T, Ihata A, Yasuda S, Nakajima A, Sugihara T, Tamura N, Fujii T, Dobashi H, Miura Y, Miyasaka N, Harigai M; REAL study group.	The risk of serious infection in patients with rheumatoid arthritis treated with tumor necrosis factor inhibitors decreased over time: a report from the registry of Japanese rheumatoid arthritis patients on biologics for long-term safety (REAL) database.	Rheumatol. Int.	34(12)	1729-1736	2014
2	Kaneko Y, Koike T, Oda H, Yamamoto K, Miyasaka N, Harigai M, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Takeuchi T.	Obstacles to the implementation of the treat-to-target strategy for rheumatoid arthritis in clinical practice in Japan.	Mod.Rheumatol.	25(1)	43-49	2015
3	Tanaka M, Koike R, Sakai R, Saito K, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Hara M, Kawaguchi Y, Tohma S, Takasaki Y, Dohi M, Nishioka Y, Yasuda S, Miyazaki Y, Kaneko Y, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Miyasaka N, Harigai M.	Pulmonary infections following immunosuppressive treatments during hospitalization worsened the short-term vital prognosis for patients with connective tissue disease-associated interstitial pneumonia.	Mod.Rheumatol.	25(4)	609-614	2015
4	Yamazaki H, Sakai R, Koike R, Miyazaki Y, Tanaka M, Nanki T, Watanabe K, Yasuda S, Kurita T, Kaneko Y, Tanaka Y, Nishioka Y, Takasaki Y, Nagasaka K, Nagasawa H, Tohma S, Dohi M, Sugihara T, Sugiyama H, Kawaguchi Y, Inase N, Ochi S, Hagiyaama H, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M; PREVENT Study Group.	Assessment of risks of pulmonary infection during 12 months following immunosuppressive treatment for active connective tissue diseases; a large-scale prospective cohort study.	J.Rheumatol.	42(4)	614-622	2015
5	ItoH, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent-A systematic review and meta-analysis.	Mod.Rheumatol.	25(5)	672-678	2015

6	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod.Rheumatol.	26(2)	175-179	2016
7	Sakai R, Hirano F, Kihara M, Yokoyama W, Yamazaki H, Harada S, Nanki T, Koike R, Miyasaka N, Harigai M.	High prevalence of cardiovascular comorbidities in patients with rheumatoid arthritis from a population based cross-sectional study of a Japanese health insurance database.	Mod. Rheumatol.	26(4)	522-528	2016
8	Harigai M, Nanki T, Koike R, Tanaka M, Watanabe-Imai K, Komano Y, Sakai R, Yamazaki H, Koike T, Miyasaka N.	Risk for malignancy in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs compared to the general population: A nationwide cohort study in Japan.	Mod. Rheumatol.	26(5)	642-650	2016
9	Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, Sugihara T, Nagasaka K, Hagiwara H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M.	Simplified disease activity index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month 12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan.	Mod. Rheumatol.	15	1-8	2016
10	Hirano F, Yokoyama W, Yamazaki H, Amano K, Hayashi T, Tamura N, Yasuda S, Dobashi H, Fujii T, Ito S, Kaneko Y, Matsui T, Okuda Y, Saito K, Suzuki F, Yoshimi R, Sakai R, Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M; T2T Epidemiological Study Group.	Achieving simplified disease activity index remission in patients with active rheumatoid arthritis is associated with subsequent good functional and structural outcomes in a real-world clinical setting under a treat-to-target strategy.	Mod. Rheumatol.	21	1-9	2016
11	Kojima M, Nakayama T, Otani T, Hasegawa M, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Miyasaka N, Yamanaka H.	Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan. Mod. Rheumatol.	Mod. Rheumatol.	2017 Jan 25:1-6 [Epub ahead of print]		

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 山 中 寿

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Mimori T, Ryu J, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Takasaki Y, Yamanaka H, Watanabe M, Tamada H, Koike T.	Postmarketing surveillance of the safety and effectiveness of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	Jul;26(4):	491-8.	2016
2	Hoshi D, Tanaka E, Igarashi A, Inoue E, Kobayashi A, Sugimoto N, Shidara K, Sato E, Seto Y, Nakajima A, Momohara S, Taniguchi A, Tsutani K, Yamanaka H.	Profiles of EQ-5D utility scores in the daily practice of Japanese patients with rheumatoid arthritis; Analysis of the IORRA database.	Mod Rheumatol.	Jan;26(1)	40-5	2016
3	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol.	Mar;26(2)	175-9	2016
4	Yano K, Ikari K, Takatsuki Y, Taniguchi A, Yamanaka H, Momohara S.	Longer operative time is the risk for delayed wound healing after forefoot surgery in patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	Mar;26(2)	211-5.	2016
5	Verstappen SM, Askling J, Berglund N, Franzen S, Frisell T, Garwood C, Greenberg JD, Holmqvist M, Horne L, Lamp K, Michaud K, Nyberg F, Pappas DA, Reed G, Symmons DP, Tanaka E, Tran TN, Yamanaka H, Ho M	Methodological Challenges When Comparing Demographic and Clinical Characteristics of International Observational Registries.	Athritis Care Res	Dec;67(12)	1637-45.	Hoboken.2015
6	Kojima M, Nakayama T, Otani T, Hasegawa M, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Miyasaka N, Yamanaka H.	Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan.	Mod Rheumatol.	25-Jan	1-6.	2017
7	Tanaka E, Inoue E, Yamaguchi R, Shimizu Y, Kobayashi A, Sugimoto N, Hoshi D, Shidara K, Sato E, Seto Y, Nakajima A, Momohara S,	Pharmacoeconomic analysis of biological disease modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis based on real-world data from the IORRA observational cohort study in Japan.	Mod Rheumatol.	29-Jul	1-10.	2016

	Taniguchi A, <u>Yamanaka H</u>					
8	Shidara K, Nakajima A, Inoue E, Hoshi D, Sugimoto N, Seto Y, Tanaka E, Momohara S, Taniguchi A, <u>Yamanaka H.</u>	Continual Maintenance of Remission Defined by the ACR/EULAR Criteria in Daily Practice Leads to Better Functional Outcomes in Patients with Rheumatoid Arthritis.	J Rheumatol.	Feb;44(2)	147-153	2017
9	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, <u>Yamanaka H.</u>	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - a systematic review and meta-analysis -	Mod Rheumatol.	Sep;25(5):	672-8	2015
10	Nakajima A, Urano W, Inoue E, Taniguchi A, Momohara S, <u>Yamanaka H.</u>	Incidence of herpes zoster in Japanese patients with rheumatoid arthritis from 2005 to 2010.	Mod Rheumatol.	25(4):	558-561	2015
11	Sato E, Tanaka E, Ochiai M, Shimizu Y, Kobayashi A, Shidara K, Hoshi D, Sugimoto N, Inoue E, Seto Y, Nakajima A, Taniguchi A, Momohara S, <u>Yamanaka H.</u>	Chronological changes in baseline disease activity of patients with rheumatoid arthritis who received biologic DMARDs between 2003 and 2012.	Mod Rheumatol.	May;25(3)	350-7	2015
12	Tanaka E, Inoue E, Hoshi D, Shimizu Y, Kobayashi A, Sugimoto N, Shidara K, Sato E, Seto Y, Nakajima A, Momohara S, Taniguchi A, <u>Yamanaka H.</u>	Cost-effectiveness of tocilizumab, a humanized anti-interleukin-6 receptor monoclonal antibody, versus methotrexate in patients with rheumatoid arthritis using real-world data from the IORRA observational cohort study.	Mod Rheumatol.	25(4);	503-513	2015
13	Ishida O, Furuya T, Inoue E, Ochi K, Ikari K, Taniguchi A, <u>Yamanaka H,</u> Momohara S.	Risk factors for established vertebral fractures in Japanese patients with rheumatoid arthritis: Results from a large prospective observational cohort study.	Mod Rheumatol.	May;25(3):	373-8	2015
14	Inoue Y, Nakajima A, Tanaka E, Inoue E, Kobayashi A, Hoshi D, Sugimoto N, Seto Y, Taniguchi A, Momohara S, <u>Yamanaka H.</u>	Effect of Smoking on Remission Proportions Differs Between Male and Female Patients with Rheumatoid Arthritis: A Study Based on the IORRA Survey.	J Rheumatol.	Jul;42(7):	1083-9.	2015
15	<u>Yamanaka H.</u>	TNF as a Target of Inflammation in Rheumatoid Arthritis.	Endocr Metab Immune Disord Drug Targets.	15(2)	129-34	2015
16	Askling J, Berglind N, Franzen S, Frisell T, Garwood C, Greenberg JD, Ho M, Holmqvist M, Horne L, Inoue E, Michaud K, Nyberg F, Pappas DA, Reed G, Tanaka E, Tran TN,	How comparable are rates of malignancies in patients with rheumatoid arthritis across the world? A comparison of cancer rates, and means to optimise their comparability, in five RA registries.	Ann Rheum Dis	Oct;75(10):	1789-96	2016

Verstappen SM, Yamanaka H, Wesby-van Swaay E, Symmons D.					
---	--	--	--	--	--

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 針 谷 正 祥

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1 Yamazaki H, Sakai R, Koike R, Miyazaki Y, Tanaka M, Nanki T, Watanabe K, Yasuda S, Kurita T, Kaneko Y, Tanaka Y, Nishioka Y, Takasaki Y, Nagasaka K, Nagasawa H, Tohma H, Dohi , Sugihara T, Sugiyama H, Kawaguchi Y, Inase N, Ochi S, Hagiyaama H, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M.	Assessment of risks for pulmonary infection during 12 months after commencing or intensifying immunosuppressive treatment for active connective tissue diseases: A report from a large-scale prospective cohort study	J Rheumatology	in press	in press	2014
2 Sakai R, Cho SK, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Amano K, Tanaka Y, Sumida T, Ihata A, Yasuda S, Nakajima A, Sugihara T, Tamura N, Fujii T, Dobashi H, Miura Y, Miyasaka N, Harigai M; For the REAL study group.	The risk of serious infection in patients with rheumatoid arthritis treated with tumor necrosis factor inhibitors decreased over time: a report from the registry of Japanese rheumatoid arthritis patients on biologics for long-term safety (REAL) database.	Rheumatol Int.	34(12)	1729-36	2014
3 Koike T, Harigai M, Inokuma S, Ishiguro N, Ryu J, Takeuchi T, Takei S, Tanaka Y, Sano Y, Yaguramaki H, Yamanaka H.	Effectiveness and Safety of Tocilizumab: Postmarketing Surveillance of 7901 Patients with Rheumatoid Arthritis in Japan.	J Rheumatol. 2014 Jan;	41(1)	15-23	2014
4 Tanaka M, Koike R, Sakai R, Saito K, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Hara M, Kawaguchi Y, Tohma S, Takasaki Y, Dohi M, Nishioka Y, Yasuda S, Miyazaki Y, Kaneko Y, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Miyasaka N, Harigai M.	Pulmonary infections following immunosuppressive treatments during hospitalization worsen the short-term vital prognosis for patients with connective tissue disease-associated interstitial pneumonia.	Mod Rheumatol.	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014
5 Yamanaka H, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Suzuki H, Shinmura Y, Koike T	Trend of patient characteristics and its impact on the response to adalimumab in patients with rheumatoid arthritis: post hoc time-course analysis of an all-case PMS in Japan	Mod Rheumatol	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014



6	Sugihara T, Ishizaki T, Hosoya T, Iga S, Yokoyama W, Hirano F, Miyasaka N, Harigai M.	Structural and functional outcomes of a therapeutic strategy targeting low disease activity in patients with elderly-onset rheumatoid arthritis: a prospective cohort study (CRANE).	Rheumatology (Oxford)	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014
7	Kaneko Y, Koike T, Oda H, Yamamoto K, Miyasaka N, Harigai M, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Takeuchi T.	Obstacles to the implementation of the treat-to-target strategy for rheumatoid arthritis in clinical practice in Japan.	Mod Rheumatol.	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014
8	Fukuda S, Kohsaka H, Takayasu A, Yokoyama W, Miyabe C, Miyabe Y, Harigai M, Miyasaka N, Nanki T.	Cannabinoid receptor 2 as a potential therapeutic target in rheumatoid arthritis.	BMC Musculoskelet Disord. 2014 Aug 12;	15(1)	275	2014
9	Miyabe Y, Miyabe C, Iwai Y, Yokoyama W, Sekine C, Sugimoto K, Harigai M, Miyasaka M, Miyasaka N, Nanki T.	Activation of fibroblast-like synoviocytes derived from rheumatoid arthritis via lysophosphatidic acid - lysophosphatidic acid receptor 1 cascade.	Arthritis Res Ther.	16(5)	461	2014
10	Yokoyama W, Kohsaka H, Kaneko K, Walters M, Takayasu A, Fukuda S, Miyabe C, Miyabe Y, Love PE, Nakamoto N, Kanai T, Watanabe-Imai K, Charvat TT, Penfold ME, Jaen J, Schall TJ, Harigai M, Miyasaka N, Nanki T.	Abrogation of CC chemokine receptor 9 ameliorates collagen-induced arthritis of mice.	Arthritis Res Ther.	16(5)	445	2014
11	Sakai R, Hirano F, Kihara M, Yokoyama W, Yamazaki H, Harada S, Nanki T, Koike R, Miyasaka N, Harigai M.	High prevalence of cardiovascular comorbidities in patients with rheumatoid arthritis from a population-based cross-sectional study of a Japanese health insurance database.	Mod Rheumatol.		[Epub ahead of print] PubMed PMID: 26666766.	2015
12	Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Mimori T, Ryu J, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Takasaki Y, Yamanaka H, Watanabe M, Tamada H, Koike T.	Postmarketing surveillance of the safety and effectiveness of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.		[Epub ahead of print] PubMed PMID: 26635183.	2016
13	Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Miyasaka N, Koike T, Baker D, Ishii Y, Yoshinari T, GO-FORTH study group.	Clinical efficacy, radiographic progression, and safety through 156 weeks of therapy with subcutaneous golimumab in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis despite prior methotrexate therapy: final results of the randomized GO-FORTH trial.	Mod Rheumatol.		[Epub ahead of print] PubMed PMID: 26474192.	2015
14	Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Ishii Y, Nakajima H,	Prevention of joint destruction in patients with high disease activity or high C-reactive protein levels: Post hoc analysis of the GO-FORTH study.	Mod Rheumatol.		[Epub ahead of print] PubMed PMID: 26471830.	2015

	Baker D, Miyasaka N, Koike T.					
15	Hirose W, Uchiyama T, Nemoto A, Harigai M, Itoh K, Ishizuka T, Matsumoto M, Yamaoka K, Nanki T.	Diagnostic performance of measuring antibodies to the glycopeptidolipid core antigen specific to Mycobacterium avium complex in patients with rheumatoid arthritis: results from a cross-sectional observational study.	Arthritis Res Ther.	17	273	2015
16	Tanaka M, Sakai R, Koike R, Harigai M.	Pneumocystis Jirovecii Pneumonia in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Tumor Necrosis Factor Inhibitors: A Pooled Analysis of 3 Agents.	J Rheumatol.	42	1726-8	2015
17	Sakai R, Cho SK, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Tanaka M, Koike R, Tanaka Y, Saito K, Hirata S, Amano K, Nagasawa H, Sumida T, Hayashi T, Sugihara T, Dobashi H, Yasuda S, Sawada T, Ezawa K, Ueda A, Fujii T, Migita K, Miyasaka N, Harigai M; REAL Study Group.	Head-to-head comparison of the safety of tocilizumab and tumor necrosis factor inhibitors in rheumatoid arthritis patients (RA) in clinical practice: results from the registry of Japanese RA patients on biologics for long-term safety (REAL) registry.	Arthritis Res Ther.	17	74	2015
18	Utsunomiya M, Dobashi H, Odani T, Saito K, Yokogawa N, Nagasaka K, Takenaka K, Soejima M, Sugihara T, Hagiwara H, Hirata S, Matsui K, Nonomura Y, Kondo M, Suzuki F, Tomita M, Kihara M, Yokoyama W, Hirano F, Yamazaki H, Sakai R, Nanki T, Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M.	Optimal regimens of sulfamethoxazole-trimethoprim for chemoprophylaxis of Pneumocystis pneumonia in patients with systemic rheumatic diseases: results from a non-blinded, randomized controlled trial.	Arthritis Res Ther	19(1)	7	2017
19	Mimori T, Harigai M, Atsumi T, Fujii T, Kuwana M, Matsuno H, Momohara S, Takei S, Tamura N, Takasaki Y, Ikeuchi S, Kushimoto S, Koike T.	Safety and effectiveness of 24-week treatment with iguratimod, a new oral disease-modifying antirheumatic drug, for patients with rheumatoid arthritis: interim analysis of a post-marketing surveillance study of 2679 patients in Japan.	Mod Rheumatol	doi: 10.1080/14397595.2016.1265695. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27919207.	doi: 10.1080/14397595.2016.1265695. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27919207.	2016
20	Hirano F, Yokoyama W, Yamazaki H, Amano K, Kawakami A, Hayashi T, Tamura N, Yasuda S, Dobashi H, Fujii T, Ito S, Kaneko Y, Matsui T, Okuda Y, Saito K, Suzuki F, Yoshimi R, Sakai R, Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N,	Achieving simplified disease activity index remission in patients with active rheumatoid arthritis is associated with subsequent good functional and structural outcomes in a real-world clinical setting under a treat-to-target strategy.	Mod Rheumatol	doi:10.1080/14397595.2016.1265726. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27919205.	doi:10.1080/14397595.2016.1265726. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27919205.	2016

	Harigai M; T2T Epidemiological Study Group..					
21	Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, Sugihara T, Nagasaka K, Hagiwara H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M.	Simplified Disease Activity Index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month 12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan.	Mod Rheumatol	[Epub ahead of print] PubMed PMID: 27846756.	[Epub ahead of print] PubMed PMID: 27846756.	2016
22	Koike T, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Takasaki Y, Mimori T, Hiramatsu K, Komatsu S, Tanaka Y.	Effect of Methotrexate Plus Adalimumab on the Achievement of Rheumatoid Arthritis Therapeutic Goals: Post Hoc Analysis of Japanese Patients (MELODY Study).	Rheumatol Ther	3(1)	129-141	2016
23	Ishiguro N, Atsumi T, Harigai M, Mimori T, Nishimoto N, Sumida T, Takeuchi T, Tanaka Y, Nakasone A, Takagi N, Yamanaka H.	Effectiveness and safety of tocilizumab in achieving clinical and functional remission, and sustaining efficacy in biologics-naive patients with rheumatoid arthritis: The FIRST Bio study.	Mod Rheumatol.	[Epub ahead of print] PubMed PMID:27414105.	[Epub ahead of print] PubMed PMID:27414105.	2016
24	Harigai M, Nanki T, Koike R, Tanaka M, Watanabe-Imai K, Komano Y, Sakai R, Yamazaki H, Koike T, Miyasaka N.	Risk for malignancy in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs compared to the general population: A nationwide cohort study in Japan.	Mod Rheumatol.	26(5)	642-50	2016
25	Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Mimori T, Ryu J, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Takasaki Y, Yamanaka H, Watanabe M, Tamada H, Koike T.	Postmarketing surveillance of the safety and effectiveness of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis	. Mod Rheumatol	26(4)	491-8	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 針谷正祥

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 針谷正祥	抗リウマチ薬・生物学的製剤の副作用と対策	監修 山口徹、北原光夫、総編集 福井次矢、高木 誠、小室一成	医学書院	2014
		今日の治療指針(私はこう治療している)	東京	819-820
2 針谷正祥	寛解導入療法、グローバルな現状	榎野博史、松尾清一	難治性血管炎に関する調査研究班・進行性腎障害に関する調査研究班	2014
		ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン(2014 改訂版)	東京・名古屋	65
3 針谷正祥	生物学的製剤概論	日本呼吸器学会生物学的製剤と呼吸	一般社団法人日本呼吸器学会	2014

		器疾患・診療の手引き作成委員会		
		生物学的製剤と呼吸器疾患 診療の手引き	東京	2-12
4	針谷正祥	田中良哉	医薬ジャーナル社	2015
		関節リウマチと骨粗鬆症 内科医が実践すべき診断と治療	大阪	138-144

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 小 池 隆 夫

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Koike T.	My contribution, my dream - a look at the future of APS.	Lupus.	23(12)	1332-1334	2014
2	Fukae J, Tanimura K, Atsumi T, Koike T.	Sonographic synovial vascularity of synovitis in rheumatoid arthritis.	Rheumatology, (Oxford)	53(4)	586-91	2014
3	Fukae J, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Shimizu M, Tanimura K, Matsuhashi M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T.	Structural deterioration of finger joints with ultrasonographic synovitis in rheumatoid arthritis patients with clinical low disease activity.	Rheumatology, (Oxford)	53(9)	1608-12	2014
4	Kasahara H, Nakamura H, Shinohara M, Koike T.	AP-VAS 2012 case report: an atypical case of microscopic polyangiitis presenting with acute tubulointerstitial nephritis without glomerular change.	CEN Case Rep.	3	1-4	2014
5	Ikeda K, Koike T, Wakefield R, Emery P.	Is the glass half full or half empty? Comment on the article by Gartner et Al.	Arthritis Rheumatol.	66(4)	1055-6	2014
6	Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Iwai K, Sakamaki Y, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T.	Efficacy and safety of certolizumab pegol without methotrexate co-administration in Japanese patients with active rheumatoid arthritis: The HIKARI randomized, placebo-controlled trial.	Mod Rheumatol.	24(4)	552-60	2014
7	Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Sakamaki Y, Desiree van der Heijde, Miyasaka N, Koike T.	Efficacy and safety of certolizumab pegol plus methotrexate in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate: the J-RAPID randomized, placebo-controlled trial.	Mod Rheumatol.	24(5)	715-724	2014
8	D'Ippolito S, Meroni PL, Koike T, Veglia M, Scambia G, Di Simone N.	Obstetric antiphospholipid syndrome: a recent classification for an old defined disorder.	Autoimmun Rev.	13(9)	901-8	2014
9	Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T.	Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients who could not receive methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the HIKARI study.	Mod Rheumatol.	24(5)	725-733	2014

	I.					
10	Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, <u>Koike T.</u>	Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the J-RAPID study.	Mod Rheumatol.	24(5)	734-743	2014
11	Harigai M, Mochida S, Mimura T, <u>Koike T.</u> , Miyasaka N.	A proposal for management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy.	Mod Rheumatol.	24(1)	1-7	2014
12	<u>Koike T.</u> , Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Haruna S, Ushida N, Kawana K, and Tanaka Y.	Safety and effectiveness of adalimumab in Japanese rheumatoid arthritis patients: Postmarketing surveillance report of 7740 patients.	Mod Rheumatol.	24(3)	390-398	2014
13	<u>Koike T.</u> , Harigai M, Inokuma S, Ishiguro N, Ryu J, Takeuchi T, Takei S, Tanaka Y, Sano Y, Yaguramaki H, Yamanaka H.	Effectiveness and Safety of Tocilizumab: Postmarketing Surveillance of 7901 Patients with Rheumatoid Arthritis in Japan.	J Rheumatol.	41(1)	15-23	2014
14	Ikeda K, Seto Y, Narita A, kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, <u>Koike T.</u>	Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint.	Arthritis Rheum.	66(3)	523-32	2014
15	Ikeda K, Seto Y, Sakamoto F, Henmi M, Fukae J, Narita A, Nakagomi D, Nakajima H, Tanimuera K, <u>Koike T.</u>	Analysis of the factors which influence the measurement of synovial power Doppler signals with semi-quantitative and quantitative measures- a pilot multicenter exercise in Japan	Mod Rheumatol.	24(3)	419-425	2014
16	<u>Koike T.</u>	Antiphospholipid syndrome: 30 years and our contribution.	Int J Rheum Dis.	18(2)	233-41	2015
17	Yamanaka H, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Suzuki H, Shinmura Y, <u>Koike T.</u>	Trend of patient characteristics and its impact on the response to adalimumab in patients with rheumatoid arthritis: post hoc time-course analysis of an all-case PMS in Japan.	Mod Rheumatol.	25(4)	495-502	2015
18	Kaneko Y, <u>Koike T.</u> , Oda H, Yamamoto K, Miyasaka N, Harigai M, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Takeuchi T.	Obstacles to the implementation of the treat-to-target strategy for rheumatoid arthritis in clinical practice in Japan.	Mod Rheumatol.	25(1)	43-49	2015
19	Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N and <u>Koike T.</u>	Early response to certolizumab pegol predicts long-term outcomes in patients with active rheumatoid arthritis: results from the Japanese studies.	Mod Rheumatol.	25(1)	11-20	2015

20	Kataoka H, Yasuda S, Fukaya S, Oku K, Horita T, Atsumi T, Koike T.	Decreased expression of Runx1 and lowered proportion of Foxp3 + CD25 + CD4+ regulatory T cells in systemic sclerosis.	Mod Rheumatol.	25(1)	90-95	2015
21	Takeuchi T, Miyasaka N, Inui T, Yano T, Yoshinari T, Abe T, Koike T.	Prediction of clinical response after 1 year of infliximab therapy in rheumatoid arthritis based on disease activity at 3 months: posthoc analysis of the RISING study.	J Rheumatol.	42(4)	599-607	2015
22	Kono M, Yasuda S, Stevens RL, Koide H, Kurita T, Shimizu Y, Kanetsuka Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Shimizu T, Majima T, Koike T, Atsumi T	Ras guanine nucleotide-releasing protein 4 is aberrantly expressed in the fibroblast-like synoviocytes of patients with rheumatoid arthritis and controls their proliferation.	Arthritis Rheumatol.	67(2)	396-407	2015
23	Moutsopoulos HM, Sugai S, Sawada S, Koike T, Miyasaka N, Kobayashi S, Takei M, Ogawa N.	Professor Norman Talal 1934-2015.	Mod Rheumatol.	25(4)	664	2015
24	Koike T, Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Takei S, Takeuchi T, Yamanaka H, Takasaki Y, Mimori T, Hisamatsu K, Komatsu S, Tanaka Y.	Effect of methotrexate plus adalimumab on the achievement of rheumatoid arthritis therapeutic goals: Post Hoc analysis of Japanese patients (MELODY study).	Rheumatol Ther.	3(1)	129-141	2016
25	Tsuru T, Tanaka Y, Kishimoto M, Saito K, Yoshizawa S, Takasaki Y, Miyamura T, Niino H, Morimoto S, Yamamoto J, Lledo-Garcia R, Shao J, Tatematsu S, Togo O, Koike T.	Safety, pharmacokinetics, and pharmacodynamics of epratuzumab in Japanese patients with moderate-to-severe systemic lupus erythematosus: results from a phase 1/2 randomized study.	Mod Rheumatol.	26(1)	87-93	2016
26	Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T.	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis.	Mod Rheumatol.	26(1)	9-14	2016
27	Tanaka Y, Takeuchi T, Miyasaka N, Sumida T, Mimori T, Koike T, Endo K, Mashino N, Yamamoto K.	Efficacy and safety of rituximab in Japanese patients with systemic lupus erythematosus and lupus nephritis who are refractory to conventional therapy.	Mod Rheumatol.	26(1)	80-86	2016
28	Ono Y, Kashihara R, Yasojima N, Kasahara H, Shimizu Y, Tamura K, Tsutsumi K, Sutherland K, Koike T, Kamishima T.	Tomosynthesis can facilitate accurate measurement of joint space width under the condition of the oblique incidence of X-rays in patients with rheumatoid arthritis.	Br J Radiol.	89(1062)		2016
29	Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N,	Prevention of joint destruction in patients with high disease activity or high C-reactive protein levels: Post hoc	Mod Rheumatol.	26(3)	323-330	2016

	Yamamoto K, Ishii Y, Nakajima H, Baker D, Miyasaka N, Koike T.	analysis of the GO-FORTH study.				
30	Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Kobayashi M, Shoji T, Togo O, Miyasaka N, Koike T.	Post-hoc analysis showing better clinical response with the loading dose of certolizumab pegol in Japanese patients with active rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	26(4)	473-480	2016
31	Tanaka Y, Harigai M, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Miyasaka N, Koike T, Baker D, Ishii Y, Yoshinari T.	Clinical efficacy, radiographic progression, and safety through 156 weeks of therapy with subcutaneous golimumab in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis despite prior methotrexate therapy: Final results of the randomized GO-FORTH trial.	Mod Rheumatol.	26(4)	481-490	2016
32	Harigai M, Ishiguro N, Inokuma S, Mimori T, Ryu J, Takei S, Takeuchi T, Tanaka Y, Takasaki Y, Yamanaka H, Watanabe M, Tamada H, Koike T	Postmarketing surveillance of the safety and effectiveness of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	26(4)	491-498	2016
33	Otomo K, Amengual O, Fujieda Y, Nakagawa H, Kato M, Oku K, Horita T, Yasuda S, Matsumoto M, Nakayama KI, Hatakeyama S, Koike T, Atsumi T	Role of apolipoprotein B100 and oxidized low-density lipoprotein in the monocyte tissue factor induction mediated by anti- 2 glycoprotein I antibodies.	Lupus.	25(12)	1288-1298	2016
34	Harigai M, Nanki T, Koike R, Tanaka M, Watanabe-Imai K, Komano Y, Sakai R, Yamazaki H, Koike T, Miyasaka N	Risk for malignancy in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs compared to the general population: A nationwide cohort study in Japan.	Mod Rheumatol.	26(5)	642-650	2016
35	Atsumi T, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Okada T, Desiree van der Heijde, Miyasaka N, Koike T.	The first double-blind, randomized, parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naïve early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors, C-OPERA, shows inhibition of radiographic progression.	Ann Rheum Dis.	75	75-83	2016
36	Mimori T, Harigai M, Atsumi T, Fujii T, Kuwana M, Matsuno H, Momohara S, Takei S, Tamura N, Takasaki Y, Ikeuchi S, Kushimoto S, Koike T.	Safety and effectiveness of 24-week treatment with iguratimod, a new oral disease-modifying antirheumatic drug, for patients with rheumatoid arthritis: interim analysis of a post-marketing surveillance study of 2679 patients in Japan.	Mod Rheumatol.	Dec 21	1-11	2016

37	Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Kasahara H, Shimizu Y, Fujimori M, Yasojima N, Ono Y, Kaneda T, Koike T.	Semi-Automated Quantification of Finger Joint Space Narrowing Using Tomosynthesis in Patients with Rheumatoid Arthritis.	J Digit Imagin.	in press
----	--	---	-----------------	----------

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 天 野 宏 一

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Kaneko Y, Atsumi T, Tanaka Y, Inoo M, Kobayashi-Haraoka H, Amano K, Miyata M, Murakawa Y, Yasuoka H, Hirata S, Nagasawa H, Tanaka E, Miyasaka N, Yamanaka H, Yamamoto K, Takeuchi T.	Comparison of adding tocilizumab to methotrexate with switching to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis with inadequate response to methotrexate: 52-week results from a prospective, randomised, controlled study (SURPRISE study)	Ann Rheum Dis	75(11)	1917-1923	2016
2	Nakamura S, Suzuki K, Iijima H, Hata Y, Lim CR, Ishizawa Y, Kameda H, Amano K, Matsubara K, Matoba R, Takeuchi T	Identification of baseline gene expression signatures predicting therapeutic responses to three biologic agents in rheumatoid arthritis: a retrospective observational study	Arthritis Res Ther	18	159	2016
3	Takeuchi T, Matsubara T, Ohta S, Mukai M, Amano K, Tohma S, Tanaka Y, Yamanaka H, Miyasaka N	Biologic -free remission of established rheumatoid arthritis after discontinuation of abatacept : a prospective, multicenter, observational study in Japan	Rheumatology	54(4)	683-691	2015
4	Amano K, Matsubara T, Tanaka T, Inoue H, Iwahashi M, Kanamoto T, Nakano T, Uchimura S, Izumihara T, Yamazaki A, Karyekar CS, Takeuchi T; Japan Abatacept Study Group	Long-term safety and efficacy of treatment with subcutaneous abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis who are methotrexate inadequate responders	Mod Rheumatol	25(5)	665-671	2015
5	Ogata A, Amano K, Dobashi H, Inoo M, Ishii T, Kasama T, Kawai S, Kawakami A, Koike T, Miyahara H, Miyamoto T, Munakata Y, Murasawa A, Nishimoto N, Ogawa N, Ojima T, Sano H, Shi K, Shono E, Suematsu E, Takahashi H, Tanaka Y, Tsukamoto H, Nomura A	Longterm safety and efficacy of subcutaneous tocilizumab monotherapy: Results from the 2-year open-label extension of the MUSASHI study	J Rheumatol	42(5)	799-809	2015
6	Sakai R, Cho SK, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Tanaka M, Koike R, Tanaka Y, Saito K, Hirata S, Amano K, Nagasawa H, Sumida T, Hayashi T,	Head-to head comparison of the safety of tocilizumab and tumor necrosis factor inhibitors in rheumatoid arthritis patients (RA) in clinical practice: results from the registry of Japanese RA patients on biologics for long-term safety	Arthritis Res Ther	17	74	2015



	Sugihara T, Dobashi H, Yasuda S, Sawada T, Ezzawa K, Ueda A, Fujii T, Migita K, Miyasaka N, Harigai M; REAL Study Group	(REAL) registry				
7	Takeshita M, Suzuki K, Kikuchi J, Izumi K, Kurasawa T, Yoshimoto K, <u>Amano K</u> , Takeuchi T	Infliximab and etanercept have distinct actions but similar effects on cytokine profiles in rheumatoid arthritis.	Cytokine	75(2)	222-227	2015
8	Sakai R, Cho SK, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, <u>Amano K</u> , Tanaka Y, Sumida T, Ihata A, Yasuda S, Nakajima A, Sugihara T, Tamura N, Fujii T, Dobashi H, Miura Y, Miyasaka N, Harigai M; For the REAL study group	The risk of serious infection in patients with rheumatoid arthritis treated with tumor necrosis factor inhibitors decreased over time: a report from the registry of Japanese rheumatoid arthritis patients on biologics for long-term safety (REAL) database	Rheumatol Int	34(12)	1729-1736	2014
9	Tanaka Y, Kubo S, Yamanaka H, <u>Amano K</u> , Hirata S, Tanaka E, Nagasawa H, Yasuoka H, Takeuchi T	Efficacy and safety of abatacept in routine care of patients with rheumatoid arthritis: Orenzia® as Biological Intensive Treatment for RA (ORBIT) study	Mod Rheumatol	24(5)	754-762	2014
10	Kurasawa T, Nagasawa H, Kishimoto M, <u>Amano K</u> , Takeuchi T, Kameda H	Addition of another disease-modifying anti-rheumatic drug to methotrexate reduces the flare rate within 2 years after infliximab discontinuation in patients with rheumatoid arthritis: An open, randomized, controlled trial	Mod Rheumatol	24(4)	561-566	2014
11	Tanaka Y, Takeuchi T, <u>Amano K</u> , Saito K, Hanami K, Nawata M, Fukuyo S, Kameda H, Kaneko Y, Kurasawa T, Nagasawa H, Hoshi D, Sato E, Yamanaka H	Effect of interleukin-6 receptor inhibitor, tocilizumab, in preventing joint destruction in patients with rheumatoid arthritis showing inadequate response to TNF inhibitors	Mod Rheumatol	24(3)	399-404	2014

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 池田 啓

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Kobayashi Y, <u>Ikeda K</u> , Nakamura T, Yamagata M, Nakazawa T, Tanaka S, Furuta S, Umibe T, Nakajima H	Severity and Diurnal Improvement of Morning Stiffness Independently Associate with Tenosynovitis in Patients with Rheumatoid Arthritis	PLoS One	11	e0166616	2016
2	<u>Ikeda K</u> , Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis	Mod Rheumatol	26	9-14	2016

	K, Sumida T, Koike T					
3	Hiraga M, Ikeda K, Shigeta K, Sato A, Yoshitama T, Hara R, Tanaka Y	Sonographic measurements of low-echoic synovial area in the dorsal aspect of metatarsophalangeal joints in healthy subjects	Mod Rheumatol	25	386-392	2015
4	Bruyn GA, Naredo E, Iagnocco A, Balint PV, Backhaus M, Gandjbakhch F, Gutierrez M, Filer A, Finzel S, Ikeda K, Kaeley GS, Manzoni SM, Ohrndorf S, Pineda C, Richards B, Roth J, Schmidt WA, Terslev L, D'Agostino MA	The OMERACT Ultrasound Working Group 10 Years On: Update at OMERACT 12	J Rheumatol	42	2172-2176	2015
5	Ikeda K, Yamagata M, Tanaka S, Yokota M, Furuta S, Nakajima H	Synovitis and osteitis in the left sternoclavicular joint in a 60-year-old woman	J Med Ultrasonic	42	133	2015
6	Hiraga M, Ikeda K, Shigeta K, Sato A, Yoshitama T, Hara R, Tanaka Y	Sonographic measurements of low-echoic synovial area in the dorsal aspect of metatarsophalangeal joints in healthy subjects	Mod Rheumatol	25	386-392	2015
7	Iwamoto T, Ikeda K, Hosokawa J, Yamagata M, Tanaka S, Norimoto A, Sanayama Y, Nakagomi D, Takahashi K, Hirose K, Sugiyama T, Sueishi M, Nakajima H	Prediction of relapse after discontinuation of biologic agents by ultrasonographic assessment in patients with rheumatoid arthritis in clinical remission: high predictive values of total gray-scale and power Doppler scores that represent residual synovial inflammation before discontinuation	Arthritis Care Res (Hoboken)	66	1576-1581	2014
8	Ikeda K, Seto Y, Ohno S, Sakamoto F, Henmi M, Fukae J, Narita A, Nakagomi D, Nakajima H, Tanimura K, Koike T	Analysis of the factors which influence the measurement of synovial power Doppler signals with semi-quantitative and quantitative measures - a pilot multicenter exercise in Japan	Mod Rheumatol	24	419-425	2014
9	Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T	Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint	Arthritis Rheumatol	66	523-532	2014
10	Ikeda K, Kambe N, Takei S, Nakano T, Inoue Y, Tomiita M, Oyake N, Satoh T, Yamatou T, Kubota T, Okafuji I, Kanazawa N, Nishikomori R, Shimojo N, Matsue H, Nakajima H	Ultrasonographic assessment reveals detailed distribution of synovial inflammation in Blau syndrome	Arthritis Res Ther	16	R89	2014
11	池田 啓	Preclinical rheumatoid arthritis	リウマチ科	57	107-12	2017
12	池田 啓	関節痛の鑑別における筋骨格超音波検査の活用	内科	119	297-9	2017

13	池田 啓	関節エコー評価の落とし穴とは？	Keynote RA	5	46-7	2017
14	池田 啓	骨関節疾患の診療における関節エコーの有用性	Rheumatology Clinical Research	4	159-64	2015
15	池田 啓, 中島裕史	関節リウマチの画像診断の進歩	日本医事新報	4783	49	2015
16	池田 啓, 中島裕史	乾癬性関節炎の本態：附着部炎	日本医事新報	4777	51	2015
17	池田 啓	関節リウマチ診療における関節エコーの有用性	Current Therapy	33	827	2015
18	池田 啓	リウマチ性疾患の診療における関節エコーの有用性	臨床病理	63	580-9	2015
19	池田 啓, 中島裕史	関節エコーとバイオマーカーによる薬効評価と薬効予測	炎症と免疫	23	323-8	2015
20	池田 啓	関節エコーによる滑膜病変評価の最適化：示指中手指関節における予備検討	リウマチ科	53	187-94	2015
21	池田 啓	関節リウマチ診療における高感度画像診断の意義	Pharma Medica	32	33-6	2014
22	池田 啓	関節リウマチの鑑別診断に有用な症状・身体所見	日本内科学会雑誌	103	2407-12	2014
23	池田 啓	関節リウマチの早期診断における高感度画像診断の意義	Keynote RA	2	21-5	2014
24	池田 啓	RA 診療における画像診断	Modern Physician	34	878-83	2014
25	池田 啓	リウマチ性多発筋痛症の診断における EULAR/ACR 予備分類基準ならびに関節エコーの有用性	臨床リウマチ	26	207-15	2014
26	池田 啓, 古田俊介	RACAT (Rheumatoid Arthritis: Comparison of Active Therapies) 試験	リウマチ科	52	37-44	2014
27	池田 啓	関節エコーは疾患活動性の指標としてどこまで役立つか	分子リウマチ治療	7	22-6	2014
28	池田 啓	超音波で診る関節リウマチ	Arthritis	11	164-9	2014
29	池田 啓	運動器疾患の超音波診断 関節リウマチ	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION	23	582-7	2014
30	池田 啓	リウマチ診療のための関節エコー撮像法ガイドライン	日本臨床	72	710-3	2014
31	中込大樹, 池田 啓, 中島裕史	関節超音波検査は ACR/EULAR 分類基準の正確度を向上させる	リウマチ科	51	112-7	2014

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 伊 藤 宣

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N,	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - a systematic review and meta-analysis -	Mod Rheumatol	25(2)	672-8	2015

Yamanaka H.					
-------------	--	--	--	--	--

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 遠藤平仁

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	遠藤平仁	自己免疫疾患における帯状疱疹に対する免疫能	リウマチ科	54(4)	440-445	2015
2	遠藤平仁	膠原病に伴う心外膜炎・心嚢液貯留	呼吸と循環	63	1037-1041	2015
3	遠藤平仁	関節リウマチ診療全体像	内科	117	1105-1109	2016
4	Hamaguchi Y, Sumida T, Kawaguchi Y, Ihn H, Tanaka S, Asano Y, Motegi S, Kuwana M, Endo H, Takehara K.	Safety and tolerability of bosentann for digital ulcers in Japanese patients with systemic sclerosis: Prospective, multicenter, open-label study	Journal of Dermatology	44	13-17	2017

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 遠藤平仁

書籍

	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
			書籍名	出版地	ページ
1	遠藤平仁	強皮症腎クリーゼの治療方針		文光堂	2015
			分子標的/Bio時代のリウマチ・膠原病治療ストラテジー	東京	245-252

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 大野 滋

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Yoshimi R, Ihata A, Kunishita Y, Kishimoto D, Kamiyama R, Minegishi K, Hama M, Kirino Y, Asami Y, Ohno S, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y	A novel 8-joint ultrasound score is useful in daily practice for rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	25	379-85	2015
2	Kirino Y, Hama M, Takase-Minegishi K, Kunishita Y, Kishimoto D, Yoshimi R, Asami Y, Ihata A, Oba MS, Tsunoda S, Ohno S, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y.	Predicting joint destruction in rheumatoid arthritis with power Doppler, anti-citrullinated peptide antibody, and joint swelling.	Mod Rheumatol.	25	842-8	2015
3	Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A,	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis.	Mod Rheumatol.	26	9-14	2016

	Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T					
4	Watanabe T, Takase-Minegishi K, Ihata A, Kunishita Y, Kishimoto D, Kamiyama R, Hama M, Yoshimi R, Kirino Y, Asami Y, Suda A, Ohno S, Tateishi U, Ueda A, Takeno M, Ishigatsubo Y	(18)F-FDG and (18)F-NaF PET/CT demonstrate coupling of inflammation and accelerated bone turnover in rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	26	180-7	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 大野 滋

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 大野滋, 鈴木毅, 小笠原倫大	リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシビ		南江堂	2016
		リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシビ	東京	

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 小笠原 倫大

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1 Yamada Y, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Nakano S, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y.	The synovial grade corresponding to clinically involved joints and a feasible ultrasound-adjusted simple disease activity index for monitoring rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.	26	1-6	2016
2 Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T.	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis.	Mod Rheumatol.	26(1)	9-14	2016
3 Minowa K, Ogasawara M, Murayama G, Gorai M, Yamada Y, Nemoto T, Matsuki Y, Sugisaki N, Ando S, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y.	Predictive grade of ultrasound synovitis for diagnosing rheumatoid arthritis in clinical practice and the possible difference between patients with and without seropositivity.	Mod Rheumatol.	26(2)	188-93	2016
4 Tokai N, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G,	Predictive value of bone destruction and duration of clinical remission for subclinical synovitis in	Mod Rheumatol.	25(4)	540-5	2015

	Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Makino S, Takasaki Y.	rheumatoid arthritis patients.				
5	Gorai M, Ogasawara M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y.	Weighting with the Lansbury articular index improves the correlation of ultrasound score with serum matrix metalloproteinase-3 level in rheumatoid arthritis patients.	Mod Rheumatol.	24(6)	915-9	2014
6	Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T; Japan College of Rheumatology Committee for the Standardization of Musculoskeletal Ultrasonography..	Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint.	Arthritis Rheumatol.	66(3)	523-532	2014
7	Nemoto T, Ogasawara M, Matsuki Y, Murayama G, Yamada Y, Sugisaki N, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y.	Can routine clinical measures predict ultrasound-determined synovitis and remission in rheumatoid arthritis patients?	Clin Exp Rheumatol.	32(1)	54-60	2014

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 金子 祐子

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Yamazaki H, Sakai R, Koike R, Miyazaki Y, Tanaka M, Nanki T, Watanabe K, Yasuda S, Kurita T, Kaneko Y, Tanaka Y, Nishioka Y, Takasaki Y, Nagasaka K, Nagasawa H, Tohma S, Dohi M, Sugihara T, Sugiyama H, Kawaguchi Y, Inase N, Ochi S, Hagiwara H, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M; for the PREVENT Study Group.	Assessment of Risks of Pulmonary Infection During 12 Months Following Immunosuppressive Treatment for Active Connective Tissue Diseases: A Large-scale Prospective Cohort Study.	J Rheumatol.	42(4)	614-22	2015
2	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y,	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - a systematic review and meta-analysis -	Mod Rheumatol.	25(5)	672-8	2015

	Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.					
3	Akiyama M, Kaneko Y, Hanaoka H, Kuwana M, Takeuchi T.	Acute kidney injury due to renal sarcoidosis during etanercept therapy: a case report and a literature review.	Intenal Med	54(9)	1131-4	2015
4	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol.	26(2)	175-9	2016
5	Kaneko Y, Atsumi T, Tanaka Y, Inoo M, Kobayashi-Haraoka H, Amano K, Miyata M, Murakawa Y, Yasuoka H, Hirata S, Nagasawa H, Tanaka E, Miyasaka N, Yamanaka H, Yamamoto K, Takeuchi T.	Comparison of adding tocilizumab to methotrexate with switching to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis with inadequate response to methotrexate: 52-week results from a prospective, randomised, controlled study (SURPRISE study).	Ann Rheum Dis.	75(11)	1917-23	2016
6	Akiyama M, Kaneko Y, Kondo H, Takeuchi T.	Comparison of the clinical effectiveness of tumour necrosis factor inhibitors and abatacept after insufficient response to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis.	Clin Rheumatol.	35(11)	2829-34	2016
7	Akiyama M, Kaneko Y, Yamaoka K, Kondo H, Takeuchi T.	Association of disease activity with acute exacerbation of interstitial lung disease during tocilizumab treatment in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective, case-control study.	Rheumatol Int.	36(6)	881-9	2016
8	Kikuchi J, Kaneko Y, Kasahara H, Emoto K, Kubo A, Okamoto S, Takeuchi T.	Methotrexate-associated Intravascular Large B-cell Lymphoma in a Patient with Rheumatoid Arthritis.	Intern Med.	55(12)	1661-5	2016
9	Hasegawa T, Kaneko Y, Izumi K, Takeuchi T.	Efficacy of denosumab combined with bDMARDs on radiographic progression in rheumatoid arthritis.	Joint Bone Spine	in press		2016
10	Murota A, Kaneko Y, Yamaoka K, Takeuchi T.	Safety of Biologic Agents in Elderly Patients with Rheumatoid Arthritis.	J Rheumatol.	43(11)	1984-88	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 金子 祐 子

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 金子祐子, 竹内勤	Biologic DMARD	田中良哉	医薬ジャーナル社	2015
		関節リウマチと骨粗鬆症	大阪	103-108

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 川 上 純

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Kawashiri SY, Nishino A, Shimizu T, Umeda M, Fukui S, Nakashima Y, Suzuki T, Koga T, Iwamoto N, Ichinose K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, Kawakami A.	Ultrasound disease activity of bilateral wrist and finger joints at three months reflects the clinical response at six months of patients with rheumatoid arthritis treated with biologic disease-modifying anti-rheumatic drugs.	Modern Rheumatology.	1	1-5	2016
2	Nakashima Y, Tamai M, Kita J, Michitsuji T, Shimizu T, Fukui S, Umeda M, Nishino A, Suzuki T, Horai Y, Okada A, Nishimura T, Koga T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Ichinose K, Hirai Y, Arima K, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Takao S, Uetani M, Aoyagi K, Eguchi K, Kawakami A.	Magnetic Resonance Imaging Bone Edema at Enrollment Predicts Rapid Radiographic Progression in Patients with Early RA: Results from the Nagasaki University Early Arthritis Cohort.	J Rheumatol.	43(7)	1278-84	2016
3	Kawashiri SY, Suzuki T, Nakashima Y, Horai Y, Okada A, Nishino A, Iwamoto N, Ichinose K, Arima K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Uetani M, Aoyagi K, Eguchi K, Kawakami A.	Synovial inflammation assessed by ultrasonography correlates with MRI-proven osteitis in patients with rheumatoid arthritis.	Rheumatology (Oxford).	53(8)	1452-6	2014
4	Nishino A, Kawashiri S, Shimizu T, Umeda M, Fukui S, Koga T, Iwamoto N, Ichinose K, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Nagata Y, Maeda T, Aoyagi K, Kawakami A.	Assessment of both articular synovitis and tenosynovitis by ultrasound is useful for evaluations of hand dysfunction in early rheumatoid arthritis patients.	Modern Rheumatology.	15	1-4	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 川 人 豊

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A,	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol.	25(5)	672-8	2016



	Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.					
2	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H. .	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol.	26(2)	175-9	2016
3	Sugiyama N, Kawahito Y, Fujii T, Atsumi T, Murata T, Morishima Y, Fukuma Y.	Treatment Patterns, Direct Cost of Biologics, and Direct Medical Costs for Rheumatoid Arthritis Patients: A Real-World Analysis of Nationwide Japanese Claims Data.	Clin Ther 2016	38(6)	1359-1375	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 川 人 豊

書籍

	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
			書籍名	出版地	ページ
1	川人 豊	病態・予後不良因子および疾患活動性評価に基づく治療アプローチ	松本功、保田晋助、三森経世、桑名正隆	文光堂	2015
			リウマチ・膠原病・診療ハイグレード	東京	2-15
2	川人 豊	診療ガイドライン 2014 からみた従来型低分子抗リウマチ薬の使用法	田中基博	ライフメディコム	2015
			Current Therapy33 (8)	東京	755-759
3	川人 豊	関節リウマチ診療ガイドラインにおける MTX 治療の意義とその位置づけ.	竹内 勤	先端医学社	2015
			Rheumatology Clinical Research 4(2)	東京	12-16
4	川人 豊	生物学的製剤が推奨される関節リウマチ患者-病態とその診方	村井 恵美	南山堂	2015
			Rp レシピ.14 (4)	東京	16-18
5	川人 豊	関節リウマチ update 関節リウマチ診療ガイドライン		診断と治療社	2016
			日本臨床 74 (6)	東京	939-943
6	川人 豊	従来型抗リウマチ薬の使い方		文光堂	2016
			Medical Practice 33 (10)	東京	1597-1602
7	川人 豊	Treat to Target の考え方と実地診療における活用	(編集委員) 今井靖、鈴木則宏、鈴木亮、穂苅量太(編集協力) 竹内勤	診断と治療社	2016
			診断と治療 104 (12)	東京	1537-1541
8	川人 豊	ステロイドと csDMARD の上手な使い方とピットホール	久保俊一、西田圭一郎、小田良	文光堂	2016
			知っておくべき! 整形外科医の関節リウマチ.ABC.	東京	110-115
9	川人 豊	抗リウマチ薬	上阪等、渥美達也、亀田秀人、中島裕史、藤本学、山口正雄	診断と治療社	2016
			膠原病・リウマチ・アレルギー-研修ノ	東京	247-249

		ー			
10	妹尾高宏、川人 豊	ステロイドとNSAIDsの使用および注意点	金城光代 jmed44 外来で診る リウマチ・膠原病 Q&A	日本医事新報社 東京	2016 89-93

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 岸 本 暢 将

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, et al.	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent-A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol	25(5) doi: 10.3109/14397595.2015.1014302	672-678	2015
2	Lau CS, Chia F, Harrison A, Hsieh TY, Jain R, Jung SM, Kishimoto M, et al.	APLAR rheumatoid arthritis treatment recommendations.	Int J Rheum Dis	18(7)	685-713	2015
3	Yoshida K, Radner H, Mjaavatten MD, Greenberg JD, Kavanaugh A, Kishimoto M, et al.	Incidence and Predictors of Biological Antirheumatic Drug Discontinuation Attempts among Patients with Rheumatoid Arthritis in Remission: A CORRONA and NinJa Collaborative Cohort Study.	J Rheumatol	42(12) doi:10.3899/jrheum.150240	2238-2246	2015
4	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, et al.	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol	26(2) doi:10.3109/14397595.2015.1069474	175-179	2016
5	Yoshida K, Kishimoto M, Radner H, et al.	Low Rates of Biological-free CDAI Remission Maintenance after Biological DMARD Discontinuation while in Remission in a Japanese Multi-center RA Registry.	Rheumatology	55(2) doi:10.1093/rheumatology/kev329	286-290	2016
6	Yoshida K, Kishimoto M, Solomon D.	Dr. Yoshida, et al reply.	J Rheumatol	43(6) doi:10.3899/jrheum.160194	1253	2016
7	平田信太郎、岸本暢将	関節リウマチ診療ガイドライン 2014 における bDMARD 治療の意義とその位置づけ	Rheumatology Clinical Research	4 巻 2 号	97-102	2015
8	岸本暢将	関節リウマチ（欧米のガイドライン）	リウマチ科	54 巻 3 号	243-249	2015
9	岸本暢将	リウマチ性疾患の分類基準と治療ガイドライン：エキスパートにおける必要性とその使い方 / 関節リウマチ	炎症と免疫	vol.24 No.3	28-36	2016
10	岸本暢将	関節リウマチの新しい診断基準、新しい薬	レジデントノート 増刊	vol.18 No.8	298-303	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 岸 本 暢 将

書籍

	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
			書籍名	出版地	ページ
1	岸本暢将		岸本暢将	羊土社	2015

		すぐに使えるリウマチ・膠原病診療マニュアル改訂版	東京		
2	岸本暢将	高齢発症の関節リウマチ	土屋弘之/紺野慎一/田中康仁/田中栄/松田秀一	医学書院	2016
			今日の整形外科治療指針(第7版)	東京	157-158
3	岸本暢将	悪性関節リウマチ	土屋弘之/紺野慎一/田中康仁/田中栄/松田秀一	医学書院	2016
			今日の整形外科治療指針(第7版)	東京	158-159

研究成果の刊行に関する一覧表(平成26~28年度)

研究分担者氏名 : 小嶋俊久

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Kojima M, Kojima T, Suzuki S, Takahashi N, Funahashi K, Kato D, Hanabayashi M, Hirabara S, Asai S, Ishiguro N.	Alexithymia, depression, inflammation, and pain in patients with rheumatoid arthritis.	Arthritis Care & Research (Hoboken)	66 ( 5 )	679 - 686	2014
2	Matsubara H, Kojima T, Kaneko A, Hirano Y, Ishikawa H, Hattori Y, Miyake H, Oguchi T, Takagi H, Yabe Y, Kato T, Ito T, Fukaya N, Kanayama Y, Shioura T, Hayashi M, Fujibayashi T, Takahashi N, Funahashi K, Kato D, Hanabayashi M, Terabe K, Ishiguro N.	Longterm retention rate and risk factor for discontinuation due to insufficient efficacy and adverse events in Japanese patients with rheumatoid arthritis receiving etanercept therapy.	The Journal of Rheumatology	41 ( 8 )	1583 - 1589	2014
3	Hirabara S, Takahashi N, Fukaya N, Miyake H, Yabe Y, Kaneko A, Ito T, Oguchi T, Kida D, Hirano Y, Fujibayashi T, Sugiura F, Hayashi M, Funahashi K, Hanabayashi M, Asai S, Ishiguro N, Kojima T.	Clinical efficacy of abatacept, tocilizumab, and etanercept in Japanese rheumatoid arthritis patients with inadequate response to anti-TNF monoclonal antibodies.	Clinical Rheumatology	33 ( 9 )	1247 - 1254	2014
4	Kojima T, Yabe Y, Kaneko A, Takahashi N, Funahashi K, Kato D, Hanabayashi M, Asai S, Hirabara S, Asai N, Hirano Y, Hayashi M, Miyake H, Kojima M, Ishiguro N.	Importance of methotrexate therapy concomitant with tocilizumab treatment in achieving better clinical outcomes for rheumatoid arthritis patients with high disease activity: an observational cohort study.	Rheumatology (Oxford)	54 ( 1 )	113 - 120	2015
5	Kobayakawa T, Kojima T, Takahashi N, Hayashi M, Yabe Y, Kaneko A, Shioura T, Saito K, Hirano Y, Kanayama Y,	Drug retention rates of second biologic agents after switching from tumor necrosis factor inhibitors for rheumatoid arthritis in Japanese patients on low-dose methotrexate or without methotrexate.	Modern Rheumatology	25 ( 2 )	251 - 256	2015

	Miyake H, Asai N, Funahashi K, Hirabara S, Hanabayashi M, Asai S, Ishiguro N.					
6	小嶋俊久	生物学的製剤が教えてくれたこと - 現状と今後 -	福井県臨床整形外科医会だより 福井県臨床整形外科医会	19号	24	2015
7	Takahashi N, Kojima T, Kaneko A, Kida D, Hirano Y, Fujibayashi T, Yabe Y, Takagi H, Oguchi T, Miyake H, Kato T, Fukaya N, Hayashi M, Tsuboi S, Kanayama Y, Funahashi K, Hanabayashi M, Hirabara S, Asai S, Yoshioka Y, Ishiguro N	Use of a 12-week observational period for predicting low disease activity at 52 weeks in RA patients treated with abatacept: a retrospective observational study based on data from a Japanese multicentre registry study.	Rheumatology (Oxford)	54 ( 5 )	854 - 859	2015
8	小嶋俊久	【日本リウマチ学会関節リウマチ診療ガイドライン2014】 関節リウマチ診療ガイドライン2014におけるリハビリテーションの意義とその位置づけ	Rheumatology Clinical Research	4巻2号	107-110	2015
9	小嶋俊久	【最新 整形外科医が知っておきたい薬の使い方】 関節リウマチ J A K阻害薬(トファシチニブ)	関節外科	34巻	95-98	2015
10	Asai S, Kojima T, Oguchi T, Kaneko A, Hirano Y, Yabe Y, Kanayama Y, Takahashi N, Funahashi K, Hanabayashi M, Hirabara S, Yoshioka Y, Takemoto T, Terabe K, Asai N, Ishiguro N	Effects of Concomitant Methotrexate on Large Joint Replacement in Patients With Rheumatoid Arthritis Treated With Tumor Necrosis Factor Inhibitors: A Multicenter Retrospective Cohort Study in Japan.	Arthritis Care & Research (Hoboken)	67 ( 10 )	1363 - 1370	2015
11	Takahashi N, Fujibayashi T, Kida D, Hirano Y, Kato T, Kato D, Saito K, Kaneko A, Yabe Y, Takagi H, Oguchi T, Miyake H, Watanabe T, Hayashi M, Kanayama Y, Funahashi K, Hanabayashi M, Hirabara S, Asai S, Takemoto T, Terabe K, Asai N, Yoshioka Y, Ishiguro N, Kojima T.	Concomitant methotrexate and tacrolimus augment the clinical response to abatacept in patients with rheumatoid arthritis with a prior history of biological DMARD use.	Rheumatology International	35 ( 10 )	1707 - 1716	2015
12	Takahashi N, Kojima T, Kaneko A, Kida D, Hirano Y, Fujibayashi T, Yabe Y, Takagi H, Oguchi T, Miyake H, Kato T, Watanabe T, Hayashi M, Kanayama Y, Funahashi K, Asai S, Yoshioka Y, Takemoto T, Terabe K, Asai N, Ishiguro	Longterm efficacy and safety of abatacept in patients with rheumatoid arthritis treated in routine clinical practice: effect of concomitant methotrexate after 24 weeks.	The Journal of Rheumatology	42 ( 5 )	786 - 793	2015

	N					
13	Asai S, Takahashi N, Funahashi K, Yoshioka Y, Takemoto T, Terabe K, Asai N, Ishiguro N, <u>Kojima T.</u>	Concomitant Methotrexate Protects Against Total Knee Arthroplasty in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Tumor Necrosis Factor Inhibitors.	The Journal of Rheumatology	42 ( 12 )	2255 - 2260	2015
14	Kojima M, <u>Kojima T.</u> , Suzuki S, Takahashi N, Funahashi K, Asai S, Yoshioka Y, Terabe K, Asai N, Takemoto T, Ishiguro N	Patient-reported outcomes as assessment tools and predictors of long-term prognosis: a 7-year follow-up study of patients with rheumatoid arthritis.	International journal of Rheumatic diseases		DOI:10.1111/1756-185X.12789.	2015
15	Yoshioka Y, Takahashi N, Kaneko A, Hirano Y, Kanayama Y, Kanda H, Takagi H, Ito T, Kato T, Saito K, Funahashi K, Asai S, Takemoto T, Terabe K, Asai N, Ishiguro N, <u>Kojima T.</u>	Disease activity early in treatment as a predictor of future low disease activity in RA patients treated with iguratimod.	Modern Rheumatology	3	1 - 6	2015
16	Fujibayashi T, Takahashi N, Kida D, Kaneko A, Hirano Y, Fukaya N, Yabe Y, Oguchi T, Tsuboi S, Miyake H, Takemoto T, Kawasaki M, Ishiguro N, <u>Kojima T.</u>	Comparison of efficacy and safety of tacrolimus and methotrexate in combination with abatacept in patients with rheumatoid arthritis; a retrospective observational study in the TBC Registry.	Modern Rheumatology	25 ( 6 )	825 - 830	2015
17	<u>Kojima T.</u> , Takahashi N, Kaneko A, Kida D, Hirano Y, Fujibayashi T, Yabe Y, Takagi H, Oguchi T, Miyake H, Kato T, Watanabe T, Hayashi M, Shioura T, Kanayama Y, Funahashi K, Asai S, Yoshioka Y, Terabe K, Takemoto T, Asai N, Ishiguro N	Predictive factors for achieving low disease activity at 52 weeks after switching from tumor necrosis factor inhibitors to abatacept: results from a multicenter observational cohort study of Japanese patients.	Clinical Rheumatology	35 ( 1 )	219 - 225	2016
18	<u>Kojima T.</u> , Takahashi N, Funahashi K, Asai S, Terabe K, Kaneko A, Hirano Y, Hayashi M, Miyake H, Oguchi T, Takagi H, Kanayama Y, Yabe Y, Watanabe T, Fujibayashi T, Shioura T, Ito T, Yoshioka Y, Ishikawa H, Asai N, Takemoto T, <u>Kojima M.</u> , Ishiguro N.	Improved safety of biologic therapy for rheumatoid arthritis over the 8-year period since implementation in Japan: long-term results from a multicenter observational cohort study.	Clinical Rheumatology	35 ( 4 )	863 - 871	2016
19	小嶋俊久	特集プライマリケア医もできる！関節リウマチ診療＜関節リウマチ治療各論 - エビデンスも踏まえて＞進歩した薬物療法下における手術治療のタイミング	南江堂 臨床雑誌「内科」	第 117 卷 第 5 号	1177 - 1181	2016

		グ：四肢関節から頸椎病変も含めて				
20	小嶋俊久	高齢者RAにおいては、治療が困難であることと早期の関節破壊という前提をまず認識することが大事です。	メディカルレビュー社 Locomotive Pain Frontier	第5巻第1号 (通巻第9号)	8	2016
21	Komatsu D, Ikeuchi K, Kojima T, Takegami Y, Amano T, Tsuboi M, Ishiguro N, Hasegawa Y.	Laterality of radiographic osteoarthritis of the knee.	Laterality	27	1 - 14	2016
22	Hattori Y, Kojima T, Kaneko A, Kida D, Hirano Y, Fujibayashi T, Terabe K, Yabe Y, Miyake H, Kato T, Takagi H, Hayashi M, Ito T, Kanayama Y, Oguchi T, Takahashi N, Ishikawa H, Funahashi K, Ishiguro N.	Longterm Retention Rate and Risk Factors for Adalimumab Discontinuation Due To Efficacy and Safety in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis: An Observational Cohort Study.	The Journal of Rheumatology	43 ( 8 )	1475 - 1479	2016
23	Komatsu D, Hasegawa Y, Kojima T, Seki T, Ikeuchi K, Takegami Y, Amano T, Higuchi Y, Kasai T, Ishiguro N.	Validity of radiographic assessment of the knee joint space using automatic image analysis.	Modern Rheumatology	26 ( 5 )	761 - 766	2016
24	小嶋俊久	特集 ×クイズで学んじゃおう！こんなに変わった関節リウマチ最新知識5「薬物治療の ×クイズ5」	メディカ出版 整形外科看護	第21巻9号 (通巻267号)	28 - 32	2016
25	Komatsu D, Hasegawa Y, Kojima T, Seki T, Higuchi Y, Ishiguro N.	Absence of a relationship between joint space narrowing and osteophyte formation in early knee osteoarthritis among Japanese community-dwelling elderly individuals: A cross-sectional study.	Modern Rheumatology	14	1 - 8	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成26～28年度）

研究分担者氏名： 小嶋俊久

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 小嶋俊久	A-5: 関節穿刺法・関節液検査	日本リウマチ財団 教育研修委員会 リウマチ学会生涯 教育委員会	診断と治療社	2016
		リウマチ病学テキ スト改訂第2版	東京	35

研究成果の刊行に関する一覧表（平成26～28年度）

研究分担者氏名： 小嶋雅代

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1 Kojima M, Kojima T, Suzuki S, Takahashi N, Funahashi K, Kato D, Hanabayashi M, Hirabara S, Asai S, Ishiguro N	Alexithymia, depression, inflammation, and pain in patients with rheumatoid arthritis.	Arthritis Care Res (Hoboken)	66	679-86	2014

2	Ito H, <u>Kojima M</u> , Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol.	25	672-8	2015
3	<u>Kojima M</u> , Kojima T, Suzuki S, Takahashi N, Funahashi K, Asai S, Yoshioka Y, Terabe K, Asai N, Takemoto T, Ishiguro N.	Patient-reported outcomes as assessment tools and predictors of long-term prognosis: a 7-year follow-up study of patients with rheumatoid arthritis.	Int J Rheum Dis.	Published online	doi: 10.1111/1756-185X.12789.	2015
4	<u>Kojima M</u> , Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol.	26	175-9	2015
5	Kojima T, Takahashi N, Funahashi K, Asai S, Terabe K, Kaneko A, Hirano Y, Hayashi M, Miyake H, Oguchi T, Takagi H, Kanayama Y, Yabe Y, Watanabe T, Fujibayashi T, Shioura T, Ito T, Yoshioka Y, Ishikawa H, Asai N, Takemoto T, <u>Kojima M</u> , Ishiguro N.	Improved safety of biologic therapy for rheumatoid arthritis over the 8-year period since implementation in Japan: long-term results from a multicenter observational cohort study.	Clin Rheumatol.	35	863-71	2016
6	<u>Kojima M</u> , Nakayama T, Otani T, Hasegawa M, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Miyasaka N, Yamanaka H.	Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan.	Mod Rheumatol.	Published online	doi: 10.1080/14397595.2016.1276511.	2017

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 酒 井 良 子

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
-------	---------	------	----	-----	-----

1	Hirano F, Yokoyama W, Yamazaki H, Amano K, Kawakami A, Hayashi T, Tamuta N, Yasuda S, Dobashi H, Fujii T, Ito S, Kaneko Y, Matsui T, Okuda Y, Saito K, Suzuki F, Yoshimi R, <u>Sakai R</u> , Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M, T2T Epidemiological Study Group.	Achieving simplified disease activity index remission in patients with active rheumatoid arthritis is associated with subsequent good functional and structural outcomes in a real-world clinical setting under a treat-to-target strategy.	Mod Rheumatol.		Epub ahead of print	2016
2	<u>Sakai R</u> , Hirano F, Kihara M, Yokoyama W, Yamazaki H, Harada S, Nanki T, Koike R, Miyasaka N, Harigai M.	High prevalence of cardiovascular comorbidities in patients with rheumatoid arthritis from a population-based cross-sectional study of a Japanese health insurance database.	Mod Rheumatol.	26	522-8	2016
3	<u>Sakai R</u> , Cho SK, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Tanaka M, Koike R, Tanaka Y, Saito K, Hirata S, Amano K, Nagasawa H, Sumida T, Hayashi T, Sugihara T, Dobashi H, Yasuda S, Sawada T, Ezawa K, Ueda A, Fujii T, Migita K, Miyasaka N, Harigai M; REAL Study Group.	Head-to-head comparison of the safety of tocilizumab and tumor necrosis factor inhibitors in rheumatoid arthritis patients (RA) in clinical practice: results from the registry of Japanese RA patients on biologics for long-term safety (REAL) registry.	Arthritis Res Ther.	17	74	2015
4	Tanaka M, <u>Sakai R</u> , Koike R, Harigai M.	Pneumocystis Jirovecii Pneumonia in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Tumor Necrosis Factor Inhibitors: A Pooled Analysis of 3 Agents.	J Rheumatol.	42	1726-8	2015

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 鈴木 毅

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, <u>Suzuki T</u> , Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T.	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis.	Mod Rheumatol.	26(1)	9-14	2016
2	Fukuda W, Hanyu T, Katayama M, Mizuki S, Okada A, Miyata M, Handa Y, Hayashi M, Koyama Y, Ariei K, Kitaori T, Hagiwara H, Urushidani Y, Yamasaki T, Ikeno	Incidence of hepatitis B virus reactivation in patients with resolved infection on immunosuppressive therapy for rheumatic disease: a multicentre, prospective, observational study in Japan.	Ann Rheum Dis.	2016 Dec 1 [Epub ahead of print]	doi: 10.1136/annrheumdis-2016-209973.	2016



Y, Suzuki T, Omoto A, Sugitani T, Morita S, Inokuma S.				
3 Suzuki T, Yoshida R, Okamoto A, Seriy Y.	Semi-quantitative evaluation of extra-synovial soft tissue inflammation in the shoulders of patients with polymyalgia rheumatica and elderly-onset rheumatoid arthritis by power Doppler ultrasound	BioMed Research International		in press

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 鈴木 毅

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 鈴木 毅, 小笠原倫大	関節リウマチ（手首・手指）	石崎 一穂, 鈴木 毅, 藤原 憲太	メジカルビュー社	2015
		これから始める運動器・関節エコー	東京	190-238
2 鈴木 毅	手関節、肩関節	大野 滋, 鈴木 毅, 小笠原 倫大	南江堂	2016
		リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシビ: 解剖学的視点とプローブ走査もわかる!	東京	42-63, 78-91

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 中山 健夫

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1 Kojima M, Nakayama T, Otani T, Hasegawa M, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Miyasaka N, Yamanaka H.	Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan.	Mod Rheumatol.	Jan 25	1-6	2017
2 Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol.	26(2)	175-9	2016
3 Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol.	25(5)	67208	2015

Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H.					
--	--	--	--	--	--

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 西 田 圭 一 郎

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	西田圭一郎	整形外科医による RA 診療の up to date.	大阪臨床整形外科医会会報	40 号	52-54	2014
2	橋詰謙三、西田圭一郎	関節リウマチの診療 身体機能障害を来さないためのアプローチ RA 高度身体機能障害への対処.	Modern Physician	34(8)	967-971	2014
3	原田遼三、西田圭一郎	卒後研修講座 整形外科医のための RA 治療 早期診断とタイトコントロール	整形外科	65(9)	963-971	2014
4	原田遼三、西田圭一郎	リウマチ医が知るべき肘関節の知識	Keynote RA	2(3)	154-161	2014
5	町田崇博、西田圭一郎	関節リウマチ類似疾患	MB Orthopaedics	27(11)	119-128	2014
6	西田圭一郎	関節リウマチと Waddington の後成的遺伝風景	臨床リウマチ	26(1)	5-8	2014
7	栗田将光, 山下美鈴, 高杉幸司, 山中龍太郎, 江澤香代, 江澤和彦, 那須義久, 山本 涉, 西田圭一郎	メトトレキサート(MTX)に認容性のない関節リウマチ患者へのアダリムマブ(ADA) + タクロリムス(TAC)併用の有用性の検討,	新薬と臨床	63	94-104	2014
8	小川節郎、西田圭一郎、服部政治、宮里勝政、古江増隆、小林洋一、浅野 拓	変形性関節症患者に対するブレンルフィン経皮吸収型製剤における長期処方時の安全性と有効性	新薬と臨床	63(4)	551-567	2014
9	金澤智子、橋詰謙三、島村安則、中原龍一、斉藤太一、小澤正嗣、原田遼三、尾崎敏文、西田圭一郎	当科における人工肩関節置換術の治療成績の検討.	日本関節病学会誌	33(4)	497-485	2014
10	原田遼三、西田圭一郎、橋詰謙三、中原龍一、斉藤太一、金澤智子、小澤正嗣、尾崎敏文	関節リウマチ(RA)に対する Swanson と AVANTA による MP 人工指関節置換術の治療成績.	日本関節病学会誌	33(2)	175-182	2014
11	小澤正嗣、西田圭一郎	腱鞘炎、腱付着部炎、肩関節周囲炎、滑液包炎.	日本臨床社	72 増刊号 3	339-343	2014
12	Nishida K, Nasu Y, Hashizume K, Nakahara R, Ozawa M, Harada R, Machida T, Ozaki T	Abatacept management during the perioperative period in patients with rheumatoid arthritis: report on eight orthopaedic procedures.	Mod Rheumatol	24	544-555	2014
13	Nishida K, Hashizume K, Nasu Y, Kishimoto M, Ozaki T, Inoue H	A 5-22-year follow-up study of stemmed alumina ceramic total elbow arthroplasties with cement fixation for patients with rheumatoid arthritis.	J Orthop Sci	19	55-63	2014
14	Maehara A, Nishida K, Furutani M, Matsumoto E, Ohtsuka A, Ninomiya Y, Oohashi T	Light and electron microscopic detection of inflammation-targeting liposomes encapsulating high-density colloidal gold in arthritic mice.	Inflamm Res	63	139-147	2014
15	Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K,	Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multiplane images of the second	Arthritis Rheumatol	66	523-532	2014

	Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T	metacarpophalangeal joint: identification of the components that are reliable and influential on the global assessment of the whole joint.				
16	Nishida K, Hashizume K, Nakahara R, Ozawa M, Harada R, Machida T, Nasu Y, Ozaki T, Inoue H	Short-term results of the PROSNAP linked elbow prosthesis with a snap-in structure and modular flange for the reconstruction of severely damaged rheumatoid elbows.	J Shoulder Elbow Surg	23	837-842	2014
17	Mukai T, Gallant R, Ishida S, Yoshitaka T, Kittaka M, Nishida K, Fox DA, Morita Y, Ueki Y.	SH3BP2 Gain-Of-Function Mutation Exacerbates Inflammation and Bone Loss in a Murine Collagen-Induced Arthritis Model.	PLoS One	21	9(8):e105518	2014
18	Hashizume M, Tan SL, Takano J, Ohsawa K, Hasada I, Hanasaki A, Ito I, Mihara M, Nishida K.	Tocilizumab, a humanized anti-IL-6R antibody, as an emerging therapeutic option for rheumatoid arthritis: Molecular and cellular mechanistic insights.	Int Rev Immunol.	43(3)	265-279	2014
19	井上 一, 西田圭一郎	リウマチ外科の歴史	臨整外	50(2)	142-146	2015
20	西田圭一郎	軟骨細胞	Keynote R.A	3(3)	113-116	2015
21	那須義久, 西田圭一郎	手術療法の適応と周術期対策	カレントセラピー	33(8)	785-790	2015
22	西田圭一郎, 小川節郎, 服部 政治, 宮里 勝政, 古江増隆, 小林 洋一, 浅野 拓	変形性関節症に対するブレンオルフィン経皮吸収型製剤の有効性と安全性-多施設共同, プラセボ対照, 無作為化, 二重盲検群間比較試験-	新薬と臨床	64(3)	243-259	2015
23	那須義久, 西田圭一郎	関節リウマチ IL-6/CTLA4 をターゲットとする生物学的製剤	関節外科	34	87-94	2015
24	Mukai T, Gallant R, Ishida S, Kittaka M, Yoshitaka T, Fox DA, Morita Y, Nishida K, Rottapel R, Ueki Y	Loss of SH3BP2 function suppresses bone destruction in TNF-driven and collagen-induced arthritis mouse models	Arthritis Rheumatol	67(3)	656-667	2015
25	Ozawa M, Nishida K, Yoshida A, Saito T, Harada R, Machida T, Ozaki T	Hyaluronan suppresses mechanical stress-induced expression of catabolic enzymes by human chondrocytes via inhibition of IL-1 production and subsequent NF- $\kappa$ B activation	Inflammation Res	64(3-4)	243-252	2015
26	Nakahara R, Nishida K, Hashizume K, Harada R, Machida T, Horita M, Ohtsuka A, Ozaki T	MRI of Rheumatoid Arthritis: Comparing the Outcome Measures in Rheumatology Clinical Trials (OMERACT) Scoring and Volume of Synovitis for the Assessment of Biologic Therapy	Acta Med Okayama	69(1)	29-35	2015
27	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - a systematic review and meta-analysis-	Modern Rheumatol	25(5)	672-678	2015
28	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M,	The process of collecting and evaluating evidences for the development of clinical practice guidelines to manage	Modern Rheumatol	26(2)	175-179	2016

	Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, <u>Nishida K</u> , Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka M, Yamanaka H.	patients with rheumatoid arthritis in Japan: utilization of GRADE approach.				
29	Saito T, <u>Nishida K</u> , Hashizume K, Nakahara R, Harada R, Machida T, Horita M, Ozaki T.	Clinical and radiographic study of partial arthrodesis for rheumatoid wrists.	Modern Rheumatol	26(1)	57-61	2016
30	Kadota Y, <u>Nishida K</u> , Hashizume K, Nasu Y, Nakahara R, Kanazawa T, Ozawa M, Harada R, Machida T, Ozaki T.	Risk factors for surgical site infection and delayed wound healing after orthopaedic surgery in rheumatoid arthritis patients.	Modern Rheumatol	26(1)	68-74	2016
31	Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, <u>Nishida K</u> , Sumida T, Koike T	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis.	Modern Rheumatol	26(1)	9-14	2016
32	<u>Nishida K</u> , Natsumeda M, Nasu Y, Ezawa K.	Dramatic Effect of Tofacitinib on TNF-Inhibitor Resistant Synovitis: A Case Report.	Rheumatology (Sunnyvale)	6	doi:10.4172/2161-1149.1000185	2016
33	Tetsunaga T, Tetsunaga T, Tanaka M, <u>Nishida K</u> , Takei Y, Ozaki T.	Effect of tramadol/acetaminophen on motivation in patients with chronic low back pain.	Pain Res Manag.	2016;2016:7458534. doi: 10.1155/2016/7458534. Epub 2016 Mar 2.		2016
34	<u>Nishida K</u> , Machida T, Horita T, Hashizume K, Nakahara R, Nasu Y, Ohashi H, Saiga K, Ozaki T.	Shortening oblique osteotomy with screw fixation for correction of the lesser metatarsophalangeal joints of rheumatoid forefoot.	Acta Med Okayama	70(6)	477-483	2016
35	Tetsunaga T, Tetsunaga T, <u>Nishida K</u> , Tanaka M, Sugimoto Y, Takigawa T, Takei Y, Ozaki T.	Denosumab and alendronate treatment in patients with back pain due to fresh osteoporotic vertebral fractures.	J Orthop Sci.	in press		
36	<u>Nishida K</u> , Hashizume K, Ozawa M, Takeshita A, Kaneda D, Nakahara R, Nasu Y, Shimamura Y, Inoue H, Ozaki T.	Results of total elbow arthroplasty with cementless implantation of alumina ceramic elbow prosthesis for patients with rheumatoid arthritis	Acta Med Okayama	in press		
37	<u>西田圭一郎</u>	リウマチ上肢の外科的治療の update. 特集 関節リウマチ update.	日本臨牀	74(6)	981-985	2016
38	堀田昌宏, <u>西田圭一郎</u>	関節リウマチ頸椎病変の画像評価.	リウマチ科	55(3)	323-329	2016
39	宮澤慎一, <u>西田圭一郎</u>	変形性関節症. 骨・関節・カルシウム代謝疾患. 2.免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の病気とくすり.	病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide. 薬局増刊号	67(4)	314-323	2016

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 西 田 圭 一 郎

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 西田圭一郎	変形性関節症に関連した解剖学・組織学. 第2章 変形性関節症とは?	千田益生 編	日本医事新報社	2014
		変形性関節症の運動療法ガイド		11-17
2 西田圭一郎	股関節の発生と発育	尾崎敏文、赤澤啓史 編	メジカルビュー社	2014
		先天性股関節脱臼の診療		10-15
3 橋詰謙三、西田圭一郎	滑膜切除術	今谷潤也	メジカルビュー社	2015
		肘関節手術のすべて	東京	328-35
4 西田圭一郎	上肢の痛みへのアプローチ	日本リウマチ財団教育研修委員会	診断と治療社	2015
		リウマチ病学テキスト	東京	53-57
5 西田圭一郎	RA 診療で日常的に用いられる画像の使い方. CT 検査	リウマチ実地医会	メディカルレビュー社	2015
		リウマチクリニック Q&A 集成.	東京	26
6 中原龍一、西田圭一郎	リウマチ性多発筋痛症	技術情報協会	技術情報協会	2015
		痛みのメカニズムとこれからの治療薬・治療法の開発	東京	387-388
7 西田圭一郎	手根管症候群. 第6章 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患を診療する, A. 膠原病・リウマチ, 7 神経血管障害.	永井良三 監修, 上阪 等他編	診断と治療社	2016
		膠原病・リウマチ・アレルギー研修ノート	東京	411-414
8 西田圭一郎	変形性関節症. V. 老年期, 前期高齢者, 後期高齢者, 超高齢者.	太田博明編	メディカルレビュー社	2016
		女性医療のすべて	東京	146-148
9 西田圭一郎	第二章 関節リウマチの特徴.	伊藤 宣 (著, 監修), 西田圭一郎 (著), 布留守敏 (著)	ミネルヴァ書房	2016
		「流れる」病気、関節リウマチを知る (シリーズ・骨の話). 関節リウマチ	京都	64-91
10 西田圭一郎	コラム. スコットランドのワディントン	伊藤 宣 (著, 監修), 西田圭一郎 (著), 布留守敏 (著)	ミネルヴァ書房	2016
		「流れる」病気、関節リウマチを知る (シリーズ・骨の話). 関節リウマチ	京都	91-93
11 西田圭一郎	第三章 関節リウマチと似た病気	伊藤 宣 (著, 監修), 西田圭一郎 (著), 布留守敏 (著)	ミネルヴァ書房	2016
		「流れる」病気、関節リウマチを知る (シリーズ・骨の話). 関節リウマチ	京都	100-131
12 西田圭一郎	第四章 罹患しやすい関節とその特徴	伊藤 宣 (著, 監修), 西田圭一郎 (著), 布留守敏 (著)	ミネルヴァ書房	2016
		「流れる」病気、関節リウマチを知る (シリーズ・骨の話). 関節リウマチ	京都	134-173
13 西田圭一郎	コラム. 内科と外科の相違.	伊藤 宣 (著, 監修), 西田圭一郎 (著), 布留守敏 (著)	ミネルヴァ書房	2016

		「流れる」病氣、関節リウマチを知る(シリーズ・骨の話)。関節リウマチ	京都	170-172	
14	西田圭一郎	コラム.アメリカの医療状況	伊藤 宣(著, 監修), 西田圭一郎(著), 布留守敏(著)	ミネルヴァ書房	2016
			「流れる」病氣、関節リウマチを知る(シリーズ・骨の話)。関節リウマチ	京都	255-257
15	西田圭一郎	コラム.上肢人工関節の歴史と種類	伊藤 宣(著, 監修), 西田圭一郎(著), 布留守敏(著)	ミネルヴァ書房	2016
			「流れる」病氣、関節リウマチを知る(シリーズ・骨の話)。関節リウマチ	京都	332-335
16	西田圭一郎	コラム. 終章 エディンバラ再訪、リウマチはどこから来たのか	伊藤 宣(著, 監修), 西田圭一郎(著), 布留守敏(著)	ミネルヴァ書房	2016
			「流れる」病氣、関節リウマチを知る(シリーズ・骨の話)。関節リウマチ	京都	339-343
17	西田圭一郎	5. 画像所見の見方とビットフォール. 7) 治療方針決定までのプロセス. 第1章. 知っておくべき診断と評価のエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	90-93
18	西田圭一郎	分子標的型DMARD. 第2章. 知っておくべき薬物治療のエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	116-117
19	西田圭一郎	私のヒヤリハット. 生物学的製剤導入時のスクリーニング.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	108
20	那須義久, 西田圭一郎	3. 診察方法. 2) 身につけたい部位別身体所見の取り方(1)上肢. 第1章. 知っておくべき診断と評価のエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	38-43
21	那須義久, 西田圭一郎	5. 画像所見の見方とビットフォール. 6) 疾患活動性の評価(DAS, SDAI, CDAI, ACR, VAS). 第1章. 知っておくべき診断と評価のエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	84-89
22	鉄永倫子, 西田圭一郎	3. リウマチ患者の痛みの管理. 1) RAの痛みの考え方と評価法. 第2章. 知っておくべき薬物治療のエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	146-152
23	鉄永智紀, 西田圭一郎	3. リウマチ患者の痛みの管理. 2) 痛みの治療薬と使い方のコツ. 第2章. 知っておくべき薬物治療のエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	153-157
24	橋詰謙三, 西田圭一郎	1. 最新の外科的治療-身体部位別の手術適応と手術のバリエーション. 1) 上肢の手術(1)肩関節・肘関節. 第3章. 知っておくべき外科的治療・リハビリテーションのエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	160-164
25	町田崇博, 西田圭一郎	1. 最新の外科的治療-身体部位別の手術適応と手術のバリエーション. 1) 上肢の手術(2)手関節. 第3章. 知っておくべき外科的治療・リハビリテーションのエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療ABC	東京	165-170

26	原田遼三, 西田圭一郎	1. 最新の外科的治療-身体部位別の手術適応と手術のバリエーション. 1) 上肢の手術 (2) 手指. 第3章. 知っておくべき外科的治療・リハビリテーションのエッセンス.	久保俊一, 西田圭一郎, 小田良 編	文光堂	2016
			知っておくべき整形外科医の関節リウマチ診療 ABC	東京	171-175

研究成果の刊行に関する一覧表 (平成 26~28 年度)

研究分担者氏名: 平田信太郎

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチに対する生物学的製剤に関する最近の知見】 BeSt 試験	リウマチ科	52 巻 1 号	1-5	2014
2	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチの疾患活動性評価を概説する】 マルチバイオマーカーの臨床応用とその可能性	分子リウマチ治療	7 巻 3 号	85-89	2014
3	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチの疾患活動性を見極める】 MBDA スコア	Rheumatology Clinical Research	3 巻 3 号	160-164	2014
4	平田信太郎, 佐藤友梨恵, 田中良哉	Rheumatology Q&A 画像が明かす診断と治療のポイント(第7回) 関節リウマチ治療中に出現した多発性肺結節をどのように鑑別するか?	Rheumatology Clinical Research	3 巻 3 号	207-211	2014
5	Hirata S, Li W, Defranoux N, Cavet G, Bolce R, Yamaoka K, Saito K, Tanaka Y.	A multi-biomarker disease activity score tracks clinical response consistently in patients with rheumatoid arthritis treated with different anti-tumor necrosis factor therapies: A retrospective observational study.	Mod Rheumatol.	25(3)	344-9	2015
6	Hirata S, Tanaka Y.	Combination therapy for early rheumatoid arthritis: a treatment holiday perspective.	Expert Rev Clin Pharmacol.	8(1)	115-22	2015
7	Hirata S, Marotta A, Gui Y, Hanami K, Tanaka Y.	Serum 14-3-3 level is associated with severity and clinical outcomes of rheumatoid arthritis, and its pretreatment level is predictive of DAS28 remission with tocilizumab.	Arthritis Res Ther.	17	280	2015
8	平田信太郎, 田中良哉	【高齢者のリウマチ・膠原病はこう診る】 高齢者で注意が必要な合併症対策 高齢者での生物学的製剤使用時の注意点	内科	115 巻 3 号	433-437	2015
9	平田信太郎, 岸本暢将	【日本リウマチ学会関節リウマチ診療ガイドライン 2014】 関節リウマチ診療ガイドライン 2014 における bDMARD(生物学的製剤) 治療の意義とその位置づけ	Rheumatology Clinical Research	4 巻 2 号	97-102	2015
10	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチの日常診療上の留意点】 生物学的製剤開始時期と種類をどう決定するか	リウマチ科	54 巻 5 号	497-502	2015
11	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチの骨・軟骨病変】 関節リウマチの骨・軟骨病変の画像評価	Clinical Calcium	25 巻 12 号	1777-1785	2015
12	平田信太郎, 田中良哉	Multi-biomarker disease activity(MBDA)score による関節リウマチの活動性評価	日本臨床免疫学会誌	39 巻 1 号	37-41	2016
13	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチ update-基礎・臨床の最新情報-】 関節リウマチ画像診断と評価 関節リウマチの新しい評価法 MBDA スコアによる RA の活動性評価	日本臨床	74 巻 6 号	931-937	2016
14	平田信太郎, 田中宏明, 中野和久, 田中良哉	Rheumatology Q&A 画像が明かす診断と治療のポイント(第11回) 鑑別すべき肺疾患について	Rheumatology Clinical Research	5 巻 1 号	63-68	2016
15	平田信太郎, 田中良哉	【関節リウマチ診療における新たな課題】 バイオフリー寛解・ドラッグフリー寛解の現状	リウマチ科	55 巻 5 号	488-495	2016

16	Hirata S, Li W, Kubo S, Fukuyo S, Mizuno Y, Hanami K, Sawamukai N, Yamaoka K, Saito K, Defranoux NA, Tanaka Y.	Association of the multi-biomarker disease activity score with joint destruction in patients with rheumatoid arthritis receiving tumor necrosis factor-alpha inhibitor treatment in clinical practice.	Mod Rheumatol.	in press
----	--	--	----------------	----------

### 研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 松 井 利 浩

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Hirata A, Suenaga Y, Miyamura T, Matsui T, Tohma S, Suematsu E, Ohnaka K, Takayanagi R.	Effect of early treatment on physical function in daily management of rheumatoid arthritis: a 5-year longitudinal study of rheumatoid arthritis patients in the National Database of Rheumatic Diseases in Japan.	Int J Rheum Dis.		in press	

### 研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 松 下 功

雑誌

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Matsushita I, Motomura H, Seki E, Kimura T.	Radiographic changes and factors associated with subsequent progression of damage in weight-bearing joints of patients with rheumatoid arthritis under TNF-blocking therapies-three-year observational study.	Mod Rheumatol.	26	1-6. [Epub ahead of print]	2016
2	Ikeda K, Narita A, Ogasawara M, Ohno S, Kawahito Y, Kawakami A, Ito H, Matsushita I, Suzuki T, Misaki K, Ogura T, Kamishima T, Seto Y, Nakahara R, Kaneko A, Nakamura T, Henmi M, Fukae J, Nishida K, Sumida T, Koike T	Consensus-based identification of factors related to false-positives in ultrasound scanning of synovitis and tenosynovitis.	Mod Rheumatol.	26(1)	9-14	2016
3	Kojima M, Nakayama T, Kawahito Y, Kaneko Y, Kishimoto M, Hirata S, Seto Y, Endo H, Ito H, Kojima T, Nishida K, Matsushita I, Tsutani K, Igarashi A, Kamatani N, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H	The process of collecting and evaluating evidences for the development of Guidelines for the management of rheumatoid arthritis, Japan College of Rheumatology 2014: Utilization of GRADE approach.	Mod Rheumatol.	26(2)	175-179	2016
4	松下 功	RA 早期診断のための画像診断の重要性 - 関節エコー	MB Orthop.	29	35-41	2016
5	松下 功	関節リウマチの股関節・膝関節病変	リウマチ科	56	562-568	2016
6	松下 功	こんなに変わった関節リウマチ 最新知識 治療の考え方	整形外科看護	21(9)	22-27	2016



7	Ito H, Kojima M, Nishida K, Matsushita I, Kojima T, Nakayama T, Endo H, Hirata S, Kaneko Y, Kawahito Y, Kishimoto M, Seto Y, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H	Postoperative complications in patients with rheumatoid arthritis using a biological agent - A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol.	25(5)	672-678	2015
8	元村 拓、松下 功、下条竜一、木村友厚	滑膜組織における病理学的所見と超音波パワードップラー信号。	臨床リウマチ	27	40-50	2015
9	松下 功、元村 拓、今西理恵子、木村友厚	Short taper wedge 型ステムを用いたセメントレス人工股関節置換術の臨床成績と X 線学的評価 - RA と OA の比較検討 -	日本人工関節学会誌	45	833-834	2015
10	松下 功	今後の新薬・新たに期待される薬剤	関節外科	34	108-114	2015
11	Isao Matsushita, Yuji Morita, Yoshiaki Ito, Hiraku Motomura and Tomoatsu Kimura	Long-term clinical and radiographic results of cementless total hip arthroplasty for patients with rheumatoid arthritis: minimal 10-year follow-up.	Mod Rheumatol.	24	281-284	2014
12	Hiraku motomura, Isao Matsushita, Eiko Seki, Hayato Mine, and Tomoatsu Kimura	Inhibitory effect of tacrolimus on progression of joint damage in patients with rheumatoid arthritis.	Int J Rheumatic disease	17	747-752	2014
13	Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T	The Japan College of Rheumatology Committee for the Standardization of Musculoskeletal Ultrasonography (JCR-CoSMUS). Ultrasound assessment of synovial pathologies in rheumatoid arthritis using comprehensive multi-plane images of the 2nd metacarpophalangeal joint - Identification of the components which are reliable and influential on the global assessment of the whole joint.	Arthritis Rheumatol	66	523-532	2014
14	松下 功	軟部組織と脱臼 - 梨状筋温存からみた股関節安定性について -	関節外科	33	705-708	2014
15	松下 功、元村 拓、伊藤芳章	梨状筋は股関節の安定性に寄与しているか? - 術中テンサーを用いた評価 -	Hip Joint	40	129-131	2014
16	松下 功、元村 拓、関 英子、木村友厚	ARASHI スコアリングシステムを用いた関節リウマチ患者の大関節評価。	臨床リウマチ	26	88-93	2014
17	松下 功	関節破壊抑制医療の向上と限界。	分子リウマチ	7	61-64	2014

研究成果の刊行に関する一覧表（平成 26～28 年度）

研究分担者氏名： 松 下 功

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
1 松下 功	骨びらん・軟骨障害	川上 純	診断と治療社	2015
		リウマチ診療のための関節エコー活用ガイド	東京	52-56

2	松下 功	運動器の外科的療法	日本リウマチ学会 生涯教育委員会	診断と治療社	2015
			リウマチ病学テキ スト改訂第2版	東京	452-457
3	松下 功	骨破壊のメカニズム（関節リウマ チ）	なし	技術情報協会	2015
			骨・関節・軟骨治療 のための新製品開 発と臨床ニーズ	東京	41-44
4	松下 功	手術	日本リウマチ学会	メディカルレビュー社	2014
			関節リウマチ診療 ガイドライン 2014	大阪	75-89
5	松下 功	（書籍の性質上、タイトルは特に ありません）	日本リウマチ学会 関節リウマチ超音 波標準化小委員会	羊土社	2014
			関節エコー評価ガ イドライン - 滑膜 病変アトラス -	東京	